

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 5 年度

1994.3

香川県教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成5年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡毎に示し、文化財保護法に関する届出等について一覧表（P.4～P.19）に示した。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。後者については原則として西から東の地域への順とした。
5. 香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。
6. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1及び50,000分の1の地形図を使用した。
7. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を県教育委員会文化行政課が行った。

目 次

1. 平成5年度埋蔵文化財保護行政の動向	1
2. 平成5年度埋蔵文化財保護行政、調査の状況	4
平成5年度 文化財保護法に関する届出等	
(1) 遺跡発見の届出・通知(57条の5・6)	4
(2) 埋蔵文化財発掘の届出・通知(57条の2・3)	6
(3) 埋蔵文化財発掘調査の通知(98条の2)	8
発掘調査結果の概況	
(1) 宗吉窯跡	20
(2) 積新田遺跡	24
(3) 旧練兵場遺跡・彼ノ宗遺跡	27
(4) 平池南遺跡	29
(5) 川津六反地遺跡	31
(6) 滝宮窪遺跡	32
(7) 高松城跡	34
(8) 竹元遺跡	36
(9) 八丁地遺跡	38
(10) 石田高校校庭内遺跡	39
(11) 富田茶臼山古墳他	40
(12) 仲善寺遺跡	43
(13) 角塚	44
(14) 高沢古墳群	46
(15) 青龍古墳	47
(16) 南鶴遺跡	49
(17) 丸亀城跡	50
(18) 青ノ山南支群2号墳	51
(19) 大堀城跡	52
(20) 烏帽子山遺跡	53
(21) 横山庵寺	55
(22) 犬塚	57
(23) 宇閉神社古墳	58
(24) 定連遺跡	60
(25) 薬師山古墳	61
(26) 行末遺跡	62
(27) 庄遺跡	63
(28) すべっと窯跡	64
(29) 空路塚	65
(30) 坊主山古墳	66
(31) 藤尾城跡	67
(32) キモンドー遺跡	68
(33) 日暮松林遺跡	69
(34) 一角遺跡	70
(35) 史跡天然記念物屋島	71
(36) 田井城	72
(37) 岡野松遺跡	74
3. 財香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査状況	
(1) 国道バイパス建設に伴う発掘調査事業	75
(2) 県事業に伴う発掘調査事業	76

1. 平成5年度埋蔵文化財保護行政の動向

1.はじめに

今年度の「東四国国体」は香川・徳島において行われ、地元に活性化をもたらした。本県におけるこれまでの主要施策は、いわゆる「3大プロジェクト」を代表とする基幹交通網の整備を目的としたものであった。本州と陸続きとなり、県都高松への高速道路の乗り入れ、航空路線の確保も実現した今、それらの社会資本を基盤として、主要施策は産業・経済の活性化を目的としたものにかわりつつある。

今後も、学校・病院・公園・社会福祉施設など生活関連の社会資本とともに、企業誘致型のインフラ整備等が予定されている。これらの公共大規模開発は国予算の大型補正を伴いながら、積極的に進められており、県下の開発事業に伴う埋蔵文化財保護行政の一層の充実を図っていく必要が高まっている。

2. 保護体制及び周知の埋蔵文化財包蔵地の現況

現在、県教育委員会には文化財専門職員が20名、市町教育委員会には5市38町のうち4市3町に9名の専門職員が配置されているが、特に市町教育委員会における配置が十分でない。(第1表)

第1表 県内の専門職配置状況

高 松 市	3名	国 分 寺 町	1名
丸 龜 市	1名	多 度 津 町	1名
坂 出 市	1名	豊 中 町	1名
普 通 寺 市	1名	香 川 県	38名

市町教育委員会における遺跡地図と遺跡台帳の整備についても、印刷物として刊行している市町は2町のみであり、今後の周知・普及が求められている。専門職員が配置されていない市町では、各種開発に伴う確認調査等の対応が困難となっており、職員の配置と基本資料の整備が急務となっている。

県教育委員会は継続的に、市町と県の遺跡地図の照合を行っている。平成2年から平成4年までに回答を得た市町分を含めて、県内の現段階の遺跡数は3,940箇所である。

3. 開発事業の動向と発掘調査の状況

国県の大規模開発事業は、空港跡地の民間分譲造成工事をはじめとして、都市部開発、工業団

地造成などのインフラ整備の計画が中心である。また、教育・文化・福祉施設の充実も目立っており、これに道路整備が伴っている。市町・民間の開発事業も同様に、工業団地造成等が多い。

また、周知の埋蔵文化財包蔵地において国県の小規模発掘調査の必要の生じたものが多かつた。これは遺跡の所在状況の把握が進むにつれ、今後ますます増加する傾向にあり、今後の調査体制について検討の余地が残った。

・県教育委員会が実施した平成5年度の発掘調査は、39件である。

市町教育委員会が実施した調査は、19件である。

4. 史跡の保存と活用

四国最大の前方後円墳である大川町富田茶臼山古墳は、平成5年7月26日付けの官報告示によって、史跡に指定された。これによって、今後大川町により公有化および整備が具体的に進められる予定である。

また、現在、普通寺市郷土資料館に保存管理されている磨臼山古墳出土矧抜式割竹形石棺は、平成5年6月10日付けの官報告示によって重要文化財に指定された。本県における重要文化財に指定された考古資料の初例となった。

国庫補助を受けて実施する史跡整備事業は特別史跡讃岐国分寺跡と史跡丸亀城跡で実施された。また、史跡有岡古墳群（宮ヶ尾古墳）の公有化が行われている。讃岐国分寺跡は史跡の北西部を中心に敷地造成・園路防塵舗装・雨水排水・植栽がおこなわれ、事業費は2,750万円である。丸亀城は、本丸北石垣の修復が行われた。今年度の総事業費は5,530万円で、うち補助対象額は4,000万円。丸亀市単独分が1,530万円である。

県指定史跡測量委託事業は、今年度は坂出市沙弥島千人塚において実施した。また、文化財愛護活動の委嘱事業として、飯山町の弥栄神社古墳群の案内説明板が設置された。

5. 発掘調査の成果

各年代ごとに調査成果を記す。

旧石器時代の新知見は今年度は見られなかった。

縄文時代の知見としては、高松市高松町の小山・南谷遺跡で「落し穴」と推定される後期から晩期の土坑が確認された。丘陵斜面の各所に深さ1m以上の穴を素掘しており、床面に「逆茂木（さかもぎ）」を据えた穴が残っていた。本県では初めての検出である。

弥生時代の遺跡は大規模調査が実施された高松市空港跡地遺跡や、同市多肥松林遺跡で集落跡の広がりとその実態が明らかとなった。特に注目されるのは、多肥松林遺跡の自然河川から出土した中期の木剣で、形状は銅剣を模倣したものである。高度な木器加工技術が窺われる。高松市小山・南谷遺跡では中期末から後期中葉の堅穴住居が多数見つかり、丘陵地でありながら製塩土

器が出土することで注目された。

古くから知られた遺跡の発掘調査が3件実施された。西讃の代表的遺跡である普通寺市仙遊町旧練兵場遺跡では、病院建物建築に伴い小規模な調査が行われたが、調査区が狭いにもかかわらず多数の竪穴住居が重複して確認され、遺構の濃密度が改めて確認された。石田高校校庭内遺跡は、東讃の代表的な弥生時代遺跡である森広遺跡群の一角をなす。学校施設建設に伴い小規模な調査が行われ、多数の竪穴住居が確認されている。本県の高地性集落として紫雲出山遺跡と並んで著名な坂出市鳥帽子山遺跡では、採石事業に伴い確認調査が実施され、中期後半の良好な土器・石器が出土している。

その他、綾歌町定連遺跡では弥生終末期の墳丘墓が調査されている。

古墳時代の遺跡は、大川町富田茶臼山古墳が史跡に指定されたが、周辺では墳場整備事業が進行しており、それに伴って試掘調査が実施された。その結果、埴輪が出土する溝などを検出しており、今後の動向が注目される。

大野原町の県指定史跡角塚は、大型の横穴式石室をもつ終末期方墳として知られており、隣接する町中央公園の造成工事に伴い、範囲確認の調査が実施された。また、高松市神在川窪町の坊主山古墳は海浜に面した低丘陵上の円墳で、確認調査によって竪穴式石室と箱式石棺の2基の主体部が検出されている。

普通寺市青龍古墳は古墳時代中期の大型墳で、市の確認調査の結果、周庭をもつ二段築成の円墳であることが明らかとなっている。

古代の遺跡としては三野町宗吉窯跡で、窯跡保存のための農道変更路線付近において瓦の物原が確認され、新たに2基の窯跡の所在が確認された。また、綾南町すべっと窯跡では須恵器を焼成するロストル平窯が確認されている。

中世では、坂出市横山廃寺で山岳寺院の調査が実施され、寺域の拡がりが確認された。また、陀間町船積寺跡に隣接する積新田遺跡で、平安後期ごろの建物跡が検出された。牟礼町田井城跡では本丸内確認トレチから焦土を含む柱穴が多数確認され、掘立柱建物を主体とする建物配置があることが判明した。

近世では高松城跡東ノ丸跡において試掘調査が行われ、現在史跡に指定されている石垣の延長部分が、上部を損壊され埋没した状態で見つかった。高松市キモンドー遺跡では16世紀後半の豪族居館に伴う掘跡が調査されている。

2. 平成5年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況

平成5年度 文化財保護法に関する届出等

(1) 遺跡発見の届出・通知(57条の5・6)

番号	位 置	原 因	発 見 者	発見年月日	遺跡の種類	遺跡の時代
1	普通寺市原田町下五条1025-1	県道善通寺府中線道路局部改修工事	香川県善通寺土木事務所所長 梶原 裕之	平5.5.22	集落跡	弥生
2	大川郡志度町大字鷹部字猿橋7299	分布調査	志度町教育委員会教育長 三谷 典昭	平5.3.31	古墳	古墳
3	大川郡志度町大字鷹部字猿橋7299	分布調査	志度町教育委員会教育長 三谷 典昭	平5.3.31	古墳	古墳
4	大川郡大川町南川字一の瀬269	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
5	大川郡大川町南川字一の瀬266-3	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
6	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
7	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
8	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
9	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
10	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
11	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
12	大川郡大川町南川字一の瀬266-4	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
13	大川郡大川町富田西字平尾1410	分布調査	大川町教育委員会教育長 木村 秀雄	平5.3.31	古墳	古墳
14	坂出市川津町六反地	下水道工事	香川県坂出土木事務所長	平5.9.14	包含地	弥生～中世
15	三豊郡詫間町積新田	県道紫雲出山線局部改修	香川県観音寺土木事務所長	平5.12.1	集落跡	中世
16	綾歌郡綾歌町富熊	圃場整備	綾歌町長 二神 正國	平5.12.24	集落跡	弥生～中世
17	高松市東植田町2048-1	県道塩江屋島西線局部改修	香川県長土木事務所長 山下 靖雄	平6.2.15	集落跡	縄文～弥生
18	大川郡志度町大字志度48番地	樹木伐採	眞覚寺住職 安部 康一	平6.3.11	その他の墓	近世

出 土 品	指 導 事 項	香川県文書番号・日付
弥生土器約50点	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16号 平成5.6.7
なし	保存等に対する配慮を指導。	5教文発第16-3号 平成5.7.19
なし	保存等に対する配慮を指導。	5教文発第16-3号 平成5.7.19
なし	保存等に対する配慮を指導。	5教文発第16-4号 平成5.10.12
弥生器片2点	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16-5号 平成5.10.28
土師器・瓦器 コンテナ2箱	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16-6号 平成5.12.1
須恵器・土師器 50点	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16-7号 平成6.1.31
弥生土器10点 縄文土器1点	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16-8号 平成6.2.24
備前焼壺1点 人骨1体分	事前の発掘調査、調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。	5教文発第16-9号 平成6.3.11

(2) 埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の2・3）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号・日付
1	旧練兵場遺跡	善通寺仙遊町 2丁目3番1号	集落跡	弥生	5教文発第15号 平成5.4.5
2	空港跡地遺跡	高松市林町、上林町 六条町	集落跡	弥生～近世	5教文発第15-2号 平成5.4.1
3	石田高校 校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東甲 1065	集落跡	弥生	――
4	仲善寺遺跡	大川郡大内町水主 字中村	集落跡	弥生	5教文発第15-3号 平成5.7.8
5	吉野下秀石 遺跡	仲多度郡満濃町吉野下	集落跡	古墳～平安	5教文発第15-4号 平成5.7.1
6	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 1丁目3番1号	集落跡	弥生	5教文発第15-5号 平成5.8.9
7	兼神城跡	三豊郡高瀬町大字 比地中697	城館跡	中世	5教文発第15-6号 平成5.9.6
8	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 2丁目1番1号	集落跡	弥生	5教文発第15-7号 平成5.9.6
9	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 2丁目1番1号	集落跡	弥生	5教文発第15-8号 平成5.9.29
10	紫雲出山遺跡	三豊郡院間町大字院間 1338-13	集落跡	弥生	5教文発第15-9号 平成5.10.8
11	大林遺跡	綾歌郡綾南町大字羽下 1060-1他	集落跡	古墳・中世	5教文発第15-10号 平成5.10.20
12	日暮松林遺跡	高松市多肥上町 1297番地他	集落跡 生産遺跡	弥生～奈良	5教文発第15-11号 平成5.11.4
13	五条遺跡	善通寺市原田町下五条 1025-1	集落跡	弥生	5教文発第15-12号 平成5.11.17
14	八丁地遺跡	大川郡志度町大字志度	集落跡	弥生	5教文発第15-13号 平成5.11.2
15	平塚・角塚	三豊郡大野原町大字 大野原字平塚1678-1他	古墳	古墳	5教文発第15-14号 平成5.11.16
16	定連遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊 西定連224-1	古墳	弥生	5教文発第15-15号 平成5.12.6
17	行末遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東 字下河西66-6	集落跡	弥生	5教文発第15-16号 平成5.12.7
18	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1-3-1	集落跡	弥生	5教文発第15-17号 平成6.2.4
19	宗吉窯跡	三豊郡三豊町 大字下高潮568-2	生産遺跡	白鳳	5教文発第15-18号 平成6.1.7
20	鳥帽子山遺跡	坂出市加茂町419	散布地	弥生	5教文発第15-19号 平成6.2.2
21	一角遺跡	高松市十川東町556-1	散布跡 集落跡 寺跡	弥生・近世	5教文発第15-20号 平成6.2.4
22	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1-3-1	集落跡	弥生	5教文発第15-21号 平成6.3.7

事業目的	事業主体	事業面積 (m ²)	事業期間	指導事項
病院内保育所新築工事	国立普通寺病院 校長 村上 剛	305.53	平5.1.30 平5.9.30	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
空港跡地整備事業	香川県土地開発公社 理事長 斎野 清士	31,305	平5.4.1 平6.3.31	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
石田高校農業実習棟改築	香川県教育委員会 教育長 松繁 震義	555	平5.6.12 平5.11.30	当教育委員会により発掘調査を実施。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について検討。
県道中村落合線自転車歩行者道新設	香川県知事 平井 城一	499.57	平5.9.1 平6.1.20	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
国道32号線瀬波バスバス建設	四国地方建設局 香川工事事務所長	7,310	平5.7.1 平6.3.31	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
場内舗装工事	四国農業試験場 場長 吉田 兼	430.5	平5.8.23 平5.8.31	遺構の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
採石	爺神碎石株式会社 代表取締役 磐崎 秀邦	60,973	昭53.9.3 平5.9.2	既に工事が終了し未調査で破壊していたため、現在のこのような事態を起こさないよう厳重注意。
排水管埋設	国立普通寺病院 院長 村上 剛	59	平5.9.7 平5.9.16	遺構の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
看護学校増築 水道管埋設	国立普通寺病院 院長 村上 剛	344.5	平5.11.20 平6.3.21	遺跡の状況と工事内容を勘案し、一部水道管埋設部分は工事立会、それ以外の部分は事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
無線中継局舍新築	詫間町長 横山 忠始	4	平6.2.1 平6.3.31	地下遺構に影響のない範囲の工事であるため慎重工事を指導。
圃場整備	香川県知事 平井 城一	3,095	平5.12.1 平6.3.31	地下遺構に影響のない範囲の工事であるため慎重工事を指導。
都市計画道路 福岡多肥上町線	高松市長 脇 信男	4,800	平5.11.15 平6.3.31	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
県道善通寺府中線 道路局部改修	香川県普通寺土木事務所 所長 横原 裕之	515	平5.10.5 平6.3.31	遺跡の状況と工事内容を勘案し、水路部分は工事立会、舗装改修部分は慎重工事を指導。
県道高松志度線 建設工事	香川県知事 平井 城一	600	平5.12.1 平8.3.31	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
公園整備	大野原町長 薩田 良知	1,135	平5.11.16 平6.2.28	遺跡の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
土砂採取	香川T.業株式会社 代表取締役 福岡 竹義	6,778	平6.1.10 平7.3.31	事前の発掘調査。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
病院建設	重信 彰洋	528.21	平5.12.20 平6.7.31	遺跡の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
場内舗装	四国農業試験場 場長 吉田 兼	381.9	平6.2.14 平6.2.16	遺跡の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
農道建設	三豊土地改良事務所 所長 勝沢 武	1,470	平6.1.13 平6.3.29	遺跡の状況と工事内容を勘案し、工事立会を指導。
採石	山崎石材株式会社 代表取締役 川井 信夫	28,240	平6.3.1 平11.12.31	遺跡の状況と工事内容を勘案し、慎重工事を指導。
建物建設	社会福祉 すみれ福祉会 理事長 松村 勝彦	1,800	平6.2.8 平7.1.31	事前の発掘調査。調査の結果、重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議。
駐車場整備	国立普通寺病院 校長 村上 剛	4,868.4	平6.3.8 平6.5.31	遺跡の状況と工事内容を勘案し工事立会を指導。

(3) 埋蔵文化財発掘調査の通知(98条の2)

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	空港跡地遺跡	高松市林町	集落跡	弥生～近世	空港跡地開発整備	鴨香川県土地開発公社
2	前田東・中村遺跡	高松市前田東町430番地他	集落跡	奈良～中世	一般国道11号線高松東道路建設	建設省
3	小山・南谷遺跡	高松市高松町1057番地他	集落跡	奈良～中世	県道高松志度線建設	香川県
4	多肥松林遺跡	高松市多肥上町1253番地	集落跡	弥生	新設高校建設	県教委
5	大神宮遺跡	三豊郡高瀬町大字上高瀬4161番地2他	不 明	不 明	高瀬町緑ヶ丘総合運動公園建設	高瀬町
6	薬師山古墳	綾歌郡綾歌町栗熊東927番地2～3他	古 墓	古 墓	土砂採取	民 間
7	宇多津町牛堂地区	綾歌郡宇多津町376番地	散布地	古 近 墓世	土砂採取	個 人
8	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2丁目1番1号	集落跡	弥 生	国立善通寺病院保育所新築	国立善通寺病院
9	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東甲1065	集落跡	弥生	石田高校農業実習室棟改築	県教委
10	大林地区	綾歌郡綾南町羽床	不 明	不 明	広域畜産環境整備	香川県
11	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東甲1065	集落跡	弥 生	石田高校農業実習室棟改築	県教委
12	史跡丸亀城跡	丸亀市一番丁	城館跡	近 世	史跡丸亀城跡整備	市教委
13	宮西地区	大川郡長尾町造田宮西	不 明	不 明	宅地造成	四鉄不動産
14	田井城跡	木田郡牟礼町大字牟礼195-1他	城館跡	中 世	宅地造成	個 人

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	県教委	31,305	平5.4.1 ～6.3.31	鶴香川県埋蔵文化財 調査センター 大山 真充 他	鶴香川県 土地開発公社	工事実施
事前調査	県教委	1,620	平5.4.12 ～5.6.30	鶴香川県埋蔵文化財 調査センター 大久保徹也・清水泰・今井由記子	建設省	工事実施
事前調査	県教委	10,000	平5.4.22 ～6.3.18	鶴香川県埋蔵文化財 調査センター 片桐孝彦・中川芳和・石井健一	県	工事実施
事前調査	県教委	18,000	平5.4.1 ～6.3.18	鶴香川県埋蔵文化財 調査センター 大山 真充 他	県教委	工事実施
試掘調査	高瀬町教委	200	平5.4.10 ～5.5.31	豊中町教委 森 裕行	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	綾歌町教委	5,550	平5.4.20 ～5.5.14	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認現状保存
試掘調査	宇多津町教委	1,038	平5.4.9 ～5.4.9	宇多津町教委 大島 孝夫 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認されず
事前調査	県教委	306	平5.5.6 ～5.6.10	文化行政課 森下 英治	国立 善通寺 病院	工事実施
試掘調査	県教委	15	平5.5.7 ～5.5.15	文化行政課 國木 健司	県教委	包蔵地確認 事前調査実施
試掘調査	県教委	400	平5.5.11 ～5.5.20	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 現状保存
事前調査	県教委	553	平5.5.19 ～5.6.11	文化行政課 國木 健司	県教委	工事実施
試掘調査	丸亀市教委	725	平5.5.20 ～6.3.30	丸亀市教委 東 信夫	国・県・市	現状保存
試掘調査	長尾町教委	40	平5.5.17 ～5.5.21	長尾町教委 吹田 健児 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	牟礼町教委	200	平5.6.14 ～5.6.17	牟礼町教委 山内 昇 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認 現状保存

番号	遺跡				調査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
15	平 塚 地 区	三豊郡大野原町 大字大野原字平塚 1678-3 他	不 明	不 明	大野原町中央公園新設	大 野 原 町
16	南 鶴 遺 跡	仲多度郡多度津町 南鶴42-4,42-5	散 布 地	弥 生 ～奈良	町道建設	多 度 津 町
17	キモンドー遺跡	高松市伏石町 1176番地 他	集 落 跡	弥 生 世 中	都市計画道路朝日町 ～仏生山線建設	高 松 市
18	五 条 遺 跡	普通寺市原田町 下五条1025-1	集 落 跡	弥 生	県道普通寺府中線 道路局部改修	香 川 県
19	西 土 居 古 墳 群	木田郡三木町大字 井戸字西土居乙 530-1 他	古 墓	古 墓	西土居工業団地造成	三 木 町
20	吉野下秀石遺跡	綾歌郡満濃町 大字吉野下	集 落 跡	古 墓 ～平安	国道32号線満濃 バイパス建設	建 設 省
21	寺 尾 古 墓 群	大川郡志度町大字 鶴部猿橋	古 墓	古 墓	鶴部南地区土地造成事業	志 度 町
22	宇 閔 神 社 古 墓	綾歌郡綾歌町 栗熊西277 他	古 墓	古 墓	資料整備	綾 歌 町
23	仲 善 寺 遺 跡	大川郡大内町 水主中村	集 落	弥 生 古 墓 中	県道中村落合自転車 歩行者道新設	香 川 県
24	史跡 天然記念物 屋 島	高松市屋島東町 528 他	その他の 道 跡	平 中	倉 庫 建 設	民 间
25	平塚・角塚地区	三豊郡大野原町 大字大野原平塚 1678-8 他6筆	不 明	不 明	大野原町中央公園新設	大 野 原 町
26	竹 元 遺 跡	高松市東植田町 2026番12	散 布 地	弥 生	消防屯所建設	高 松 市
27	池 戸 八幡社 1号墳	木田郡三木町大字 池戸1388番2	古 墓	古 墓	遺跡内容把握	三 木 町
28	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町 水田	集 落 跡	中 近 世 世	県道高松長尾大内線建設	香 川 県

調査						
対処	調査主体	調査面積	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	大野原教委	(m ²) 3,547	平5.6.1 ～5.6.30	豊中町教委 森 裕行	町教委	包蔵地確認
試掘調査	多度津町教委	30	平5.6.7 ～5.6.18	多度津町教委 岡 敦憲	町教委	包蔵地確認されず
事前調査	市教委	3,200	平5.6.10 ～5.11.30	市教委 山本 英之	高松市	工事実施
事前調査	県教委	370	平5.6.21 ～5.7.2	文化行政課 森下 英治	香川県	工事実施
試掘調査	三木町教委	160	平5.6.22 ～5.6.30	三木町教委 平尾 康則 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確保 事前調査実施予定
事前調査	県教委	7,310	平5.7.1 ～6.3.31	徳島県埋蔵文化財 調査センター 大久保徹也・清水勝一・今井由子	建設省	工事実施
試掘調査	志度町教委	100	平5.7.6 ～5.7.15	志度町教委 大高 博 県教委職員調査指導	町教委	協議中
測量調査	綾歌町教委	1,000	平5.6.23 ～5.7.7	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	町教委	
事前調査	県教委	500	平5.7.15 ～5.8.10	文化行政課 國木 健司	香川県	工事実施
試掘調査	市教委	40	平5.7.21 ～5.7.21	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認されず 工事実施
試掘調査	大野原町教委	264	平5.7.20 ～6.3.30	大野原町教委 藤川 正明 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認 現状保存
試掘調査	市教委	61	平5.8.2 ～5.8.6	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認されず
測量調査	三木町教委	3,000	平5.8.1 ～5.8.31	國木 健司 森下 英治 山元 敏裕	町教委	
試掘調査	県教委	160	平5.8.30 ～5.8.31	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認されず

番号	遺跡				調査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
29	小山・南谷遺跡	高松市新田町小山 高松市高松町南谷	集落跡	繩 弥 文 生	県道高松志度線建設	香川県
30	笠堂地区	大川郡長尾町東 字笠堂	散布地	不 明	長尾郵便局新築	四国郵政局
31	白山3遺跡	木田郡三木町大字 下高岡字白山 980-1他	集落跡	不 明	健康福祉施設造成	三木町
32	空路塚	詠歌郡圓分寺町 新谷字前谷78番1	その他の 遺跡	中 世	住 宅 開 発	個 人
33	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 1-3-1	集落跡	弥 古 生 墳	パイプライン	四国農業試験場
34	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町 石田東甲1065	集落跡	弥 生	石田高校実習棟 付 帯 工 事	県 教 委
35	彼ノ宗遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥 生	弘田川河川改修	香川県
36	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町 2-1-1	集落跡	弥 生	国立善通寺病院看護 学校教場棟増築工事	国立善通寺病院
37	鳥帽子山遺跡	板出市加茂町 鳥帽子山1693	集落跡	弥 生	採 石	山 横 石 材
38	仲善寺遺跡	大川郡大内町水主	集落跡	弥 古 生 中 墳 世	大内地区原営圃場整備	香川県
39	八丁地地区	大川郡志度町 志度八丁地	不 明	不 明	県道高松志度線建設	香川県
40	二宮地区	三豊郡高瀬町大字 羽方2136番地1	不 明	不 明	遊歩道設置	高瀬町
41	紫雲出山遺跡	三豊郡詫間町大字 大浜乙451番地1	集落跡	弥 生	防災行政無線中継局設置	詫間町
42	藤村地区	大川郡志度町大字 志度藤村	不 明	不 明	一般国道11号高松東 道路建設	建設省
43	堀切古墳	木田郡三木町大字 水上4355-1他	古 墳	古 墳	墓地公園造成	民 間

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	県教委	560	平5.8.24 ～5.8.27	文化行政課 國木 健司 森下 英治	国・県	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	県教委	120	平5.8.31 ～5.8.31	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認されず
試掘調査	三木町教委	100	平5.9.6 ～5.9.10	三木町教委 平尾 康則 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認 事前調査予定
事前調査	国分寺町教委	300	平5.11.1 ～5.12.20	国分寺町教委 松尾 忠幸	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	県教委	100	平5.9.6 ～5.9.7	文化行政課 森下 英治	県教委	協議中
事前調査	県教委	250	平5.9.6 ～5.9.30	文化行政課 國木 健司	県教委	工事実施
試掘調査	県教委	100	平5.9.9 ～5.9.9	文化行政課 森下 英治	県教委	協議中
試掘調査	県教委	30	平5.9.13 ～5.9.13	文化行政課 森下 英治	国立 普通寺 病院	包蔵地確認 事前調査実施
試掘調査	坂出市教委	25	平5.9.13 ～5.9.30	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認
試掘調査	県教委	160	平5.9.27 ～5.9.29	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	県教委	160	平5.9.21 ～5.9.22	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	高瀬町教委	100	平5.10.1 ～5.10.30	高瀬町教委 森 祐一 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	詫間町教委	4	平5.9.20 ～5.9.22	豊中町教委 森 裕行	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	県教委	400	平5.10.4 ～5.10.5	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	三木町教委	1,000	平5.10.7 ～5.10.8	三木町教委 平尾 康則 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認されず

番号	遺跡				調査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
44	旧練兵場遺跡	善通寺市仙造町 2-1-1	集落跡	弥生	国立普通寺病院看護学校 敷場擴張工事等	国立善通寺病院
45	八丁地遺跡	大川郡志度町大字 志度字八丁地	集落跡	弥生 奈良 ~平安	県道高松志度線建設	香川県
46	砂古地区	木田郡三木町大字 田中2429, 2428-1, 2430-1	不 明	その他の (不明)	県営圃場整備	香川県
47	坊主山古墳	高松市神在宿町 1-1	古 墳	古 墳	土砂採取	個 人
48	音谷窯	香川県香南町 大字由佐2172-3	生産遺跡	奈 良	香南地区県営圃場整備	香 川 県
49	久米山遺跡群	高松市東山崎町 1139 他	散布地	弥生 ~古墳	遊歩道建設	個 人
50	三谷石舟池古墳群	高松市三谷町 2708 他	古 墳	古 墳	堤防改修・池底浚渫	民 间
51	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町 1297 他	集落跡 生産遺跡	弥生 ~奈良	道路	高 松 市
52	川津地区	坂出市川津町	不 明	その他の (不明)	国道438号線道路改修	香 川 県
53	高松城跡	高松市玉藻町86 他	城館跡	近 世	歴史博物館建設	県 教 委
54	高沢古墳群	三豊郡豊中町大字 上高野524-2, 528-8, 528-3	古 墳	古 墳	遺跡内容確認	豊 中 町
55	犬塚	綾歌郡綾歌町 岡田西1592-1, 1592-4	古 墳	古 墳	自然崩壊	綾歌町教委
56	定連遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊 西224-1~2	その他の 墓	弥 生	土砂採取	民 间
57	福万地区	木田郡三木町大字 水上字福万	不 明	その他の (不明)	県道高松長尾大内線建設	香 川 県

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	県教委	324.5	平5.10.18 ～5.11.19	文化行政課 森下 英治	国立 普通病院	工事実施
事前調査	県教委	540	平5.11.10 ～5.12.3	文化行政課 國木 健司	香川県	工事実施
試掘調査	県教委	20	平5.11.1 ～5.11.2	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	市教委	350	平5.10.15 ～5.11.10	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認
試掘調査	県教委	200	平5.11.4 ～5.11.5	文化行政課 森下 英治	国・県・市	包蔵地確認されず
試掘調査	市教委	30	平5.10.28 ～5.11.5	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認されず
試掘調査	市教委	800	平5.11.15 ～5.3.18	市教委 山本 英之	市教委	高松市
事前調査	市教委	4,800	平5.11.15 ～6.3.31	市教委 山本 英之	高松市	工事実施
試掘調査	県教委	100	平6.1.9 ～6.1.30	文化行政課 森下 英治	国・県	包蔵地確認
試掘調査	県教委	116	平6.1.8 ～6.1.30	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	豊中町教委	1,500	平5.12.1 ～6.3.31	豊中町教委 森 裕行	国・県・町	包蔵地確認
測量調査	綾歌町教委	100	平5.11.13 ～5.12.31	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	町教委	復旧・補強し 現状保存
発掘調査	綾歌町教委	1,230	平5.12.1 ～6.1.31	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	町教委	工事実施
試掘調査	県教委	280	平5.12.7 ～5.12.8	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 事前調査予定

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
58	千町遺跡	大川郡大川町 富田中2248-1他	集落跡	弥生 ～奈良 中世	県営圃場整備	香川県
59	川津六反地遺跡	坂出市川津町 六反地	散布地	弥生	大東川流域下水道管渠 立坑掘削	香川県
60	瀧宮瀧地区	綾歌郡綾南町大字 瀧宮字瀧	不明	不明	瀧宮郵便局新築	四国郵政局
61	藤尾城跡	高松市香西本町 468	城館跡	中世	宇佐神社社務所新築	宇佐神社
62	行末遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊 東字下河西66-6	集落跡	弥生	医院併用住宅新築	個人
63	石仏地区	大川郡大川町 富田中3360他	その他の 遺跡 (不明)	不明	県営圃場整備	香川県
64	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町 458-1他	散布地 集落跡 生産遺跡	弥生 ～古墳 中世	都市計画道路福岡 多肥上町線建設	高松市
65	宗吉窯跡	三豊郡三野町吉津 宗吉	生産遺跡	古墳 ～奈良	宗吉地区土地改良事業	香川県
66	平田地区	高松市十川東町字 平田	不明	不明	県道高松長尾大内線建設	香川県
67	多肥松林遺跡	高松市多肥上町字 松林1269他	不明	不明	高松土木事務所建設	香川県
68	平池南遺跡	丸亀市原田町 丸亀市金倉町	不明	不明	陸上競技場建設	県教委
69	菱子・中所地区	木田郡三木町平木 菱子、中所	不明	不明	新設高校建設	県教委
70	一角地区	高松市林町42-19 他	集落跡	弥生	養護老人ホーム建設	すみれ福祉会
71	丸亀市山北地区	丸亀市作原町広友 769-1	不明	不明	遺跡確認	丸亀市教委

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	県教委	660	平5.12.9 ～5.12.13	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 現状保存
事前調査	県教委	15	平5.9.15 ～5.9.15	文化行政課 森下 英治	香川県	工事実施
試掘調査	県教委	60	平5.12.9 ～5.12.9	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認 協議中
試掘調査	市教委	50	平5.12.1 ～5.12.10	市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認
試掘調査	綾歌町教委	15	平5.12.3 ～5.12.10	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認 現状保存
試掘調査	大川町教委	600	平5.12.14 ～5.12.17	大川町教委 細川 正浩 県教委職員調査指導	町教委	包蔵地確認 協議中
試掘調査	市教委	250	平5.12.15 ～6.1.31	市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	県教委	200	平6.1.6 ～6.2.26	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認
試掘調査	県教委	520	平6.1.10 ～6.1.12	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	県教委	560	平6.1.17 ～6.1.21	文化行政課 國木 健司	国・県	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	県教委	788	平6.1.24 ～6.1.26	文化行政課 國木 健司 森下 英治	県教委	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	県教委	800	平6.1.31 ～6.3.31	文化行政課 國木 健司	県教委	包蔵地確認 事前調査予定
試掘調査	市教委	150	平6.1.14 ～6.3.15	市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 事前調査実施
試掘調査	丸亀市教委	226	平6.3.3 ～6.3.4	丸亀市教委 東 信男	国・県・市	包蔵地確認されず

番号	遺跡					調査	
	名称	所在地	種類	時代		原因	原因者
72	庄遺跡	綾歌郡綾歌町 富熊1720-1他	集落跡	弥生 平安	奥川内地区团体営土地 改良総合整備	綾歌町	
73	南谷遺跡	坂出市府中町南谷 5001-30他	散布地	古墳 ～平安	市道改良工事	坂出市	
74	青の山古墳群	丸亀市土器町東 4丁目89	古墳	古墳	遺跡範囲確認	丸亀市教委	
75	石仏地区	大川郡大川町 富田中3392	その他の 遺跡 (不明)	不明	大川地区県営圃場整備	香川県	
76	横山庵寺跡	坂出市府中町笠谷 東字6210-2、 6210-3	社寺跡	平安 ～中世	遺跡範囲確認	市教委	
77	一角遺跡	高松市林町宮西 42-19他	散布地 集落跡 社寺跡	弥近 生世	特別養護老人ホーム	すみれ福祉会	
78	吉野大堀王屋敷跡	仲多度郡溝瀬町 大字吉野字八幡	城館跡	中世	土地造成	鴨近石組	
79	延命八反地地区	三豊郡豊中町 上高野	不明	不明	県道財田西豊中線 局部改修工事	香川県	
80	玉藻地区	高松市玉藻町 102-1他	不明	不明	県民ホール小ホール建設	県教委	
81	多度津町 北鷺・南鷺地区	仲多度郡多度津町 北鷺2丁目578他	散布地	奈良 平安	町道建設	多度津町	
82	丸亀市郡家地区	丸亀市郡家町3690	不明	不明	市内遺跡確認	丸亀市教委	
83	三の池古墳	綾歌郡飯山町 東坂元493-19	古墳	古墳	遺跡内容把握	飯山町教委	
84	岡野松遺跡	大川郡志度町 大川志度48番地	その他の 墓	近世	樹木伐採	真覚寺	
85	横山庵寺	綾歌郡綾歌町 富熊3775-1他	社寺跡	中世	遺跡整備	綾歌町教委	

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査 事前調査	綾歌町教委	1,200	平6.2.7 ～6.2.21	綾歌町教委 近藤 武司 県教委職員調査指導	綾歌町	包蔵地確認現状保存 (一部事前調査実施後工事実施)
試掘調査	坂出市教委	100	平6.2.7 ～6.2.28	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認されず
試掘調査	丸亀市教委	400	平6.2.2 ～6.3. 3	丸亀市教委 東 信男	国・県・市	現状保存
試掘調査	県教委	30	平6.3.3 ～6.3.4	文化行政課 國木 健司	県教委	包蔵地確認されず
試掘調査	坂出市教委	100	平6.2.23 ～6.3.25	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認
事前調査	市教委	1,800	平6.2.8 ～6.3.31	市教委 山本 英之	すみれ 福祉会	工事実施
試掘調査	町教委	2,112	平6.1.18 ～6.1.20	片桐 節子	町教委	包蔵地確認協議中
試掘調査	県教委	272	平6.3.23 ～6.3.25	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認されず
試掘調査	県教委	50	平6.3.28 ～6.3.29	文化行政課 森下 英治	県教委	包蔵地確認協議中
試掘調査	町教委	60	平6.3.22 ～6.3.30	町教委 岡 敏恵	町教委	包蔵地確認されず
試掘調査	市教委	969	平6.3.7 ～6.3.25	市教委 東 信男	国・県・市	包蔵地確認されず
測量調査	町教委	2,000	平6.3.26 ～6.5.8	國木 健司	町教委	現状保存
事前調査	町教委	100	平6.3.11 ～6.3.14	町教委 大高 博 県教委職員調査指導	真覚寺	工事実施
試掘調査	町教委	1,800	平6.3.1 ～6.3.25	町教委 近藤 武司 坂出市教委職員調査協力	町教委	包蔵地確認

宗 吉 窯 跡

1. 所 在 地 三豊郡三野町吉津宗吉
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成6年1月6日～12日
4. 調査面積 112m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 県営土地改良事業
7. 調査結果の概要

当該窯跡は平成3年度、県営圃場整備事業に伴う発掘調査によって、藤原宮所用瓦を生産した官窯の性格をもつ瓦窯であることが判明している。窯は皿池の西岸を中心に、これまで7基が確認されており、約5m間隔で横一列に構築されている。

これらの調査結果をうけて、事業主体である三豊土地改良事務所では当初窯跡を横断する形状で計画していた農道を、皿池の一部を埋め立てて迂回する路線変更を行い、窯跡を現状保存する措置を講じた。

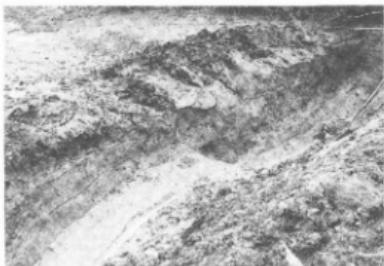
今回の調査は、新たに示された農道路線内およびそれに伴って必要となった皿池の浚渫予定箇所を中心に、事業予定地内の埋蔵文化財の包蔵状況を把握するために行ったものである。

トレンチは窯跡前面の谷筋の存在が予想される皿池の南側（A地区）に2箇所と、7基の窯跡のうち最も北側に位置する6号窯跡のさらに北側（B地区）に3箇所の合計5箇所を設定した。

A地区では予想に違わず、幅約10m、深さ2.5m以上の旧谷筋が検出され、埋土の下部より古瓦片が少量出土した。谷筋は窯跡の並びにはほぼ平行しており、焚口から谷筋の肩までは幅約20mの平坦地が拡がっていることが明らかとなった。



第1図 遺跡の位置



第2図 1トレンチ谷筋



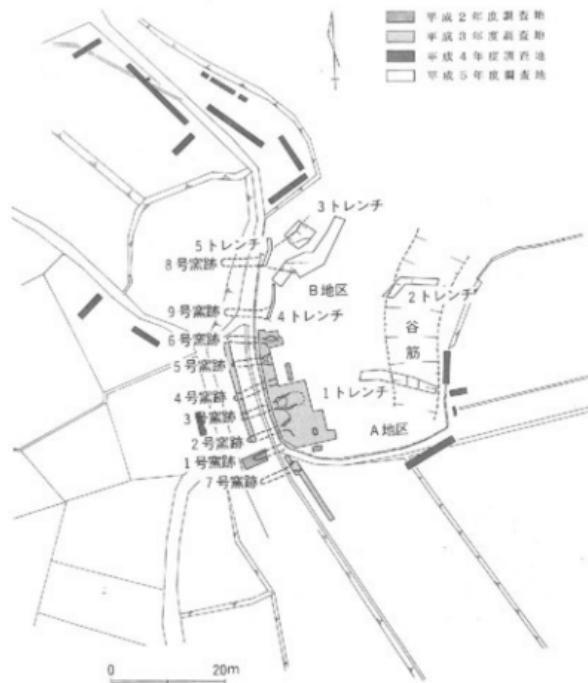
第3図 3トレンチ古瓦出土状態

B地区では、3トレンチで大量の古瓦を包含し、谷筋にむかって裾を広げる形状の灰原を確認したほか、5トレンチにおいても窯体片を包含する灰原1基を確認した。4トレの灰原は6号窯跡から北に5m離れており、3トレの灰原はその上部で約10m離れている。以上のことから、それぞれの灰原の山側には窯跡が存在しているものと考えられる。

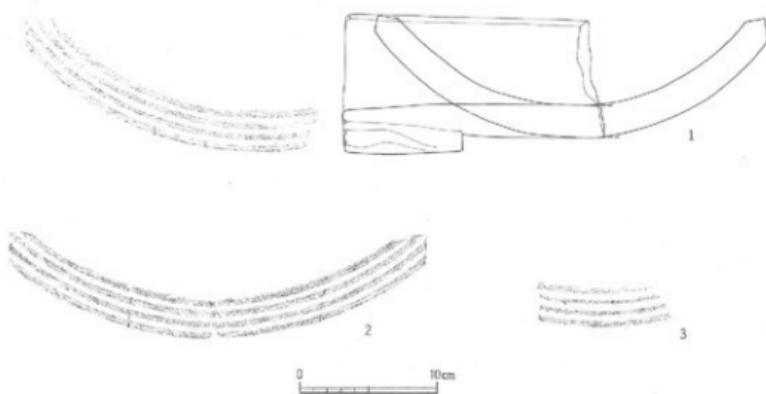
3トレ灰原より出土した古瓦は、大半が平瓦でコンテナ約110箱におよぶ。文様瓦としては、四重弧文軒平瓦が、9点出土している。また、須恵器や窯体片が少量出土している。このうち、平瓦は凸面に桶板痕跡や布目を残すものが多く見られ、また側縁形態はすべて>状で斉一的である。

8.まとめ

これまで確認した7基の窯跡に加え、今回新たに2基の窯跡の存在が明らかとなった。今後、3トレ灰原に対応する窯跡を8号窯跡、5トレ灰原に対応する窯跡を9号窯跡と呼称する。窯跡が現状保存された今、これから文化財保護側として窯跡をどのように保存・活用していくか、今後早急に検討すべき課題である。(森下)

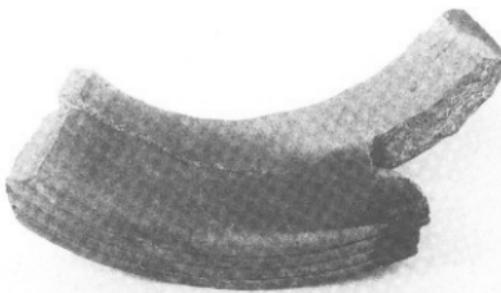


第4図 宗吉窯跡トレンチ配置図

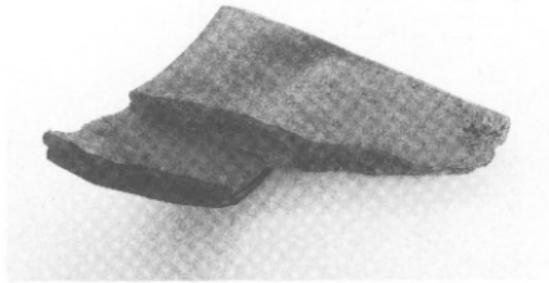


第5図 宗吉窯跡出土古瓦実測図・拓影

第6図
四重弧文軒平瓦



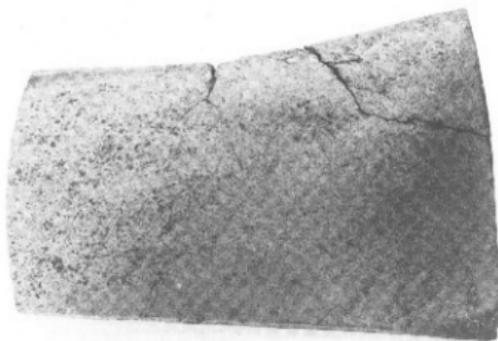
第7図
半折した軒平瓦の側面



第8図
出土丸瓦



第9図
出土平瓦



第10図
3 トレンチ古瓦出土状態

積新田遺跡

1. 所在地 三豊郡詫間町積新田
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年12月2日・3日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 県道紫雲出山線拡幅工事
7. 調査結果の概要

調査地は莊内半島東側の急峻な尾根筋と海岸に向う緩やかな傾斜地との地形変換線付近に位置する。調査地に隣接して小高い尾根筋が伸びており、その尾根上には平安時代の創建が伝えられる船積寺跡が所在する。また、大正年間に発掘された経塚もそれに隣接して所在する。経塚出土品は和鏡8面、青磁盒などの逸品が多く、現在、東京国立博物館に所蔵されている。

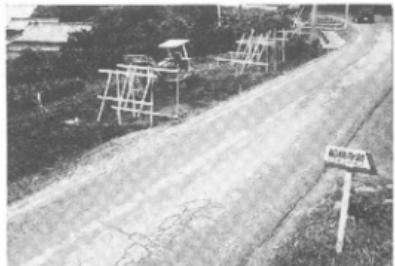
発掘調査の結果、地表下20~30cmで地山の黄褐色土を切り込んだ溝状遺構2条、ピット11個を検出した。ピットは深さ35cmと比較的の遺存状態がよい。溝状遺構から12世紀~13世紀代の瓦器・土師器・亀山焼甕などが出土した。

8.まとめ

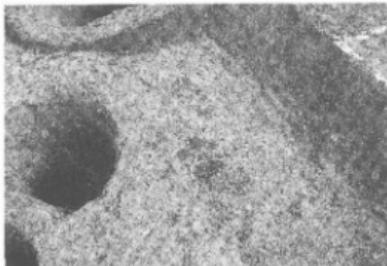
今回の調査地は船積寺跡から100mほど離れた箇所であるが、地形的にみて寺跡に関連する建物等を考慮する必要があろう。時期的には経塚が10~11世紀と推定されることから、それよりやや下る時期の所産である。今後は標記事業との調整を図りながら、船積寺の寺域や伽藍内容等を把握していく必要がある。(森下)



第1図 遺跡の位置



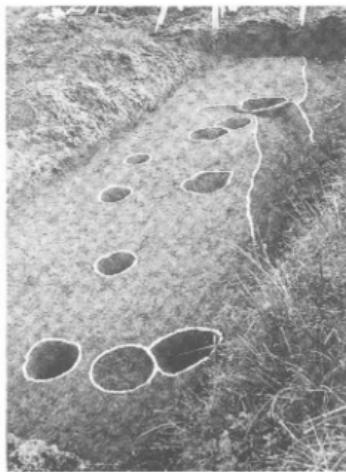
第2図 調査地近景



第3図 瓦器椀出土状況



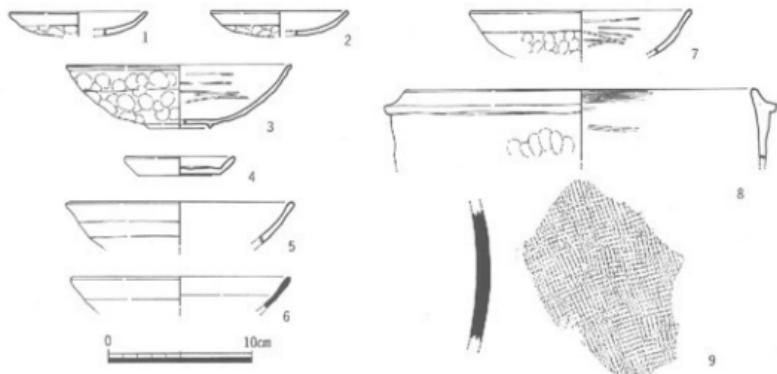
第4図 調査地位置図



第5図 遺構検出状況



第6図 遺構配置図



1～3 SD-01 4～6 SD-02 7～9 包含層

第7図 積新田遺跡出土土器実測図

番号	器種
1	瓦器小皿
2	瓦器小皿
3	瓦器碗
4	土師器小皿
5	土師器碗

番号	器種
6	須恵器碗（いわゆる瓦質土器）
7	瓦器碗
8	土師質土釜B
9	龜山焼壺体部



第8図 現在の船積寺境内



第9図 船積寺経塚

旧練兵場遺跡・彼ノ宗遺跡

1. 所在地 善通寺市仙遊町
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年5月6日～6月3日、
9月6日～10日、
10月18日～11月24日
4. 調査面積 600m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 国立普通寺病院保育所新築等
四国農業試験場施設整備等
弘田川河川改修工事

7. 調査結果の概要

旧練兵場遺跡は国の機関である国立善通寺病院、四国農業試験場の敷地内にひろがる弥生～古墳時代の広大な集落跡である。彼ノ宗遺跡は昭和58年に弘田川河川改修工事に伴い発掘調査が行われ、同様に弥生～古墳時代の集落跡が確認されている。

今回、各種事業に伴い2件の事前調査、3件の試掘調査を実施した。内容は以下のとおりである。なお、国立善通寺病院関係の調査結果については今年度調査報告書を刊行しているので、それを参照していただきたい。(森下)



第1図 遺跡の位置

事業名	種別	調査面積	内容
国立善通寺病院保育所新築	事前調査	305m ²	弥生時代竪穴住居14棟、溝1条、中世土坑墓1基
四国農業試験場施設整備等	試掘調査	70m ²	弥生時代の竪穴住居、堀立柱建物、古墳時代流路、古代溝
弘田川河川改修工事	試掘調査	60m ²	弥生時代ピット、古代～中世溝
国立善通寺病院看護学校増築等	試掘調査	15m ²	弥生時代の竪穴住居、古墳時代堀立柱建物
国立善通寺病院看護学校増築等	事前調査	150m ²	弥生時代の竪穴住居、古墳時代堀立柱建物

第2図

国立善通寺病院
保育所調査区全景



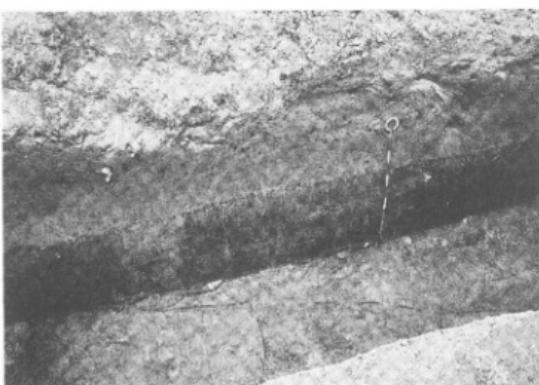
第3図

国立善通寺病院
看護学校調査区全景



第4図

四国農業試験場
4トレンチ



平池南遺跡

1. 所在地 丸亀市金倉町・田村町
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成6年1月24日～26日
4. 調査面積 788m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師
國木健司・森下英治
6. 調査の原因 陸上競技場建設
7. 調査結果の概要

調査地は弥生時代前期の環濠集落で著名な中の池遺跡から南に約400mの平坦な水田地である。

トレンチは対象地の東側を中心として合計18箇所に設定した。

調査の結果、縄文晩期の遺物を包含する自然流

路、弥生前期後半の大溝等を検出した。また弥生期と推定されるピットも確認しており、当該期の集落跡が大溝を伴って広がっている可能性が高い。

出土した縄文土器は、黒色磨研の深鉢、浅鉢があり二枚貝条痕の調整を良好に留めている。深鉢は肩部で明瞭に屈曲し、波状口縁端部に刻目を施すもので、晩期中葉に比定される。浅鉢は尖底気味の体部形状を呈し、底部はきわめて小さなサイズの上底が付属する。

弥生前期の大溝からは、口縁部に断面三角形の貼付凸帯を付し、多条沈線を施す臺やサヌカイト製打製石庖丁・石鎌などが出土している。(森下)



第2図 調査地遠景



第1図 遺跡の位置



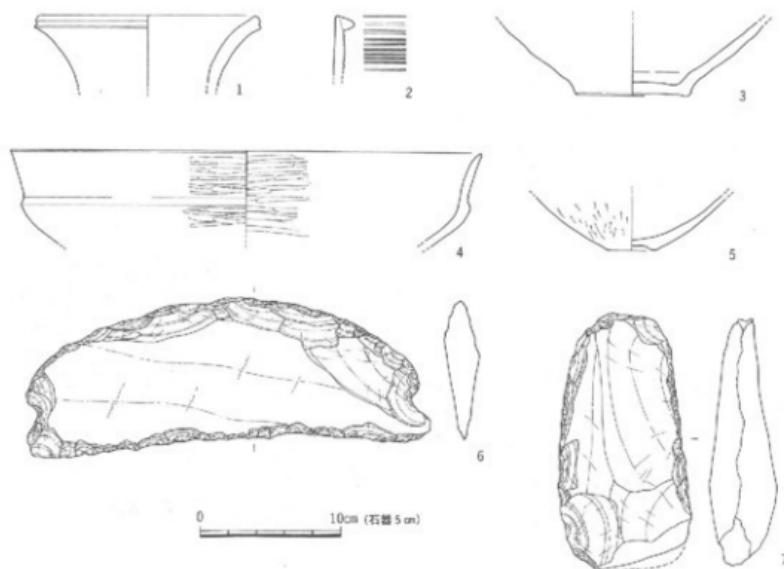
第3図 弥生時代前期大溝



第4図
自然流路出土深鉢
(波状口縁)



第5図
自然流路出土浅鉢
(平口縁)



第6図 平池南遺跡出土遺物実測図

川津六反地遺跡

1. 所在地 坂出市川津町字六反地
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年9月14日
4. 調査面積 15m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 大東川流域下水道管渠工事
7. 調査結果の概要

大東川流域の坂出市川津地区は下川津遺跡、川津一ノ又遺跡等の大規模な集落遺跡が分布する。このことから、国道438号線に沿って施工される上記工事の豎坑掘削時には、事業主体である県坂出土木事務所の協力の下、工事中の立会を継続的に実施してきたところである。

川津六反地地区の豎坑掘削においては、地表下約0.6mの層位で弥生時代～中世にまたがる流路状遺構が確認されたため、急速事前調査を実施し、記録保存を行った。流路は深さ約0.6mで北西方向に走行する。埋土は黒褐色粘質シルト層で、下位に砂層が堆積する。遺物は粘土層と砂層の境付近で出土した。弥生土器片、土師器片がある。

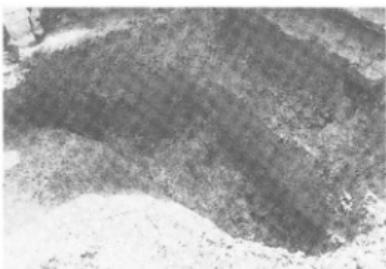
なお、周辺の道路工事のため立会の際にも同様の流路が確認されている。

8. まとめ

今回の調査は限定された狭い範囲の調査であったが、周辺の微高地上には集落域が拡がる可能性がある。今後、周辺地区的開発に当たっては事前に埋蔵文化財の包蔵状況を確認する必要があるものと考えられる。(森下)



第1図 遺跡の位置



第2図 川津六反地遺跡流路



第3図 川津地区立会状況

滝宮滝遺跡（滝宮城跡）

1. 所在地 綾歌郡綾南町滝宮滝
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年12月9日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 滝宮郵便局新築工事
7. 調査結果の概要

綾川中流域、現在の滝宮神社境内付近は、中世の土豪「滝宮氏」の居城の一つ「滝宮城」として知られている。今回の調査地は、神社境内の北東に隣接する箇所で、城跡に関連する遺構等の検出が予想された。

対象地（約2,000m²）内において、4箇所（合計100m²）の試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。その結果、対象地の南側を中心に、近世前半以前と推定される柱穴群を検出した。出土遺物は土師器片に瓦が少量伴っている。

8.まとめ

滝宮城の城主「滝宮弥十郎」は「南海通記」等の文献で16世紀ごろに登場する当地域の土豪である。今回の調査で出土した遺物は、これらの時期と矛盾するものではない。

滝宮城の城郭構造は現段階では不明であるが、神社の境内付近が城の中心とと推定されており、そこから100mと離れていない今回の調査地は、城郭を構成する周辺郭の一つとも考えられる。今後、周辺の開発事業との調整を図りながら、城郭構造を解明していく必要がある。（森下）



第1図 遺跡の位置



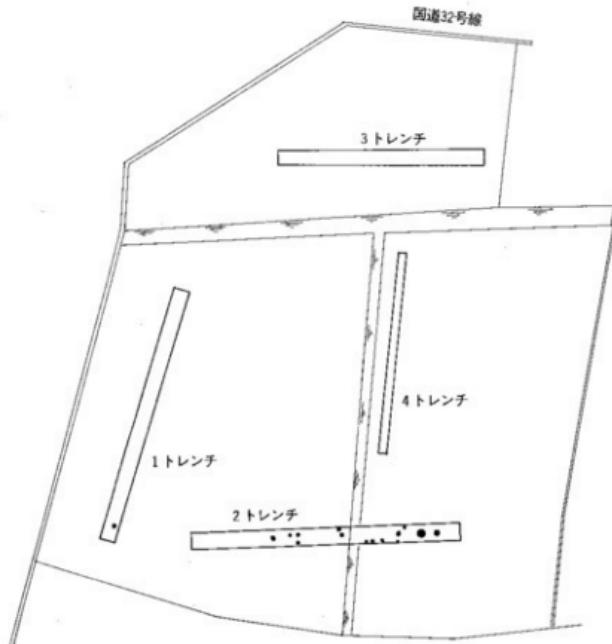
第2図 対象地南側トレンチ全景



第3図 柱穴群検出状況



第4図 調査地位置図



第5図 レンチ配置図

高 松 城 跡

1. 所 在 地 高松市玉藻町86番地他
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成6年1月17~18日
4. 調査面積 104m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 歴史博物館建設
7. 調査結果の概要

調査地は、昭和60年度に県民ホール建設に伴って発掘調査が行われた地区の南に隣接する箇所で、絵図等に記録が残る江戸期東ノ丸の米蔵南側および作事所に相当する。

事業予定地のうち、掘削が可能な2地区で合計5箇所の試掘トレンチを設定した。調査の結果、昭和59年度に追加指定された国指定の東ノ丸東石垣に接続する石垣西側基底石の並びを確認したほか、建物礎石と推定される大形石材を検出した。また、石垣築造時の遺構面が前代の建物等を取り壊して整地した瓦・漆喰の集積層をベースとしていること、石垣築造以前の建物礎石が存在することなどが確認された。さらに、1・4トレンチではその下層において中世から江戸初期の陶磁器を伴う遺構面を確認している。

8.まとめ

当該調査地は、昭和初期に東ノ丸東側の堀が埋め立てられ、また昭和30年代の土地区画等によつて石垣が取り壊されるなど、削平・整地が行われた経緯がある。しかしながら、石垣の西側基底石が検出されたことにより、堀に面する東側の石垣の遺存状態を推定することが可能となった。また、東ノ丸築造以前の遺構面も複数面存在することが明らかとなり、今後の調査によって絵図に残る東ノ丸築造以前の町屋の遺構等、高松城を多面的に把握する資料の検出が期待された。(森下)



第1図 遺跡の位置



第2図 調査対象地



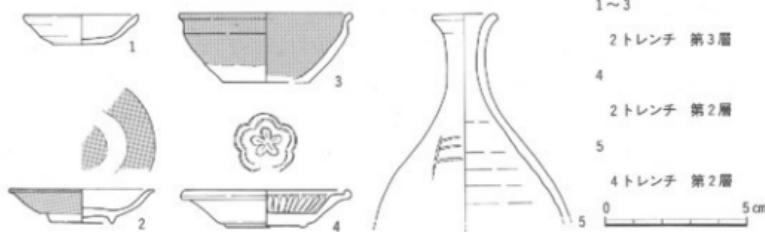
第3図 石垣基底石検出状況



第4図 調査地位置図



第5図 トレンチ配置図



第6図 出土遺物実測図

竹元遺跡

1. 所在地 高松市東植田町2048-1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成6年2月15日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 県道塩江屋島西線拡幅
7. 調査結果の概要

耕作土及び床土直下が弥生時代後期の遺構面となる。調査区北西端付近で竪穴住居、北東端及び東端中央付近で大溝、南端付近で土坑等を検出している。竪穴住居は西側の断面で確認したのみで平面プランは明確でないが、南北2m、深さ22cmを測る。大半は調査区以西に所在しているものと考えられる。大溝はやはり大半が調査区外にあるため幅は不明であるが深さ70cm以上を測るもので、段丘の縁辺部を巡る形で掘削されている。弥生時代後期の土器片を比較的多く包含している。

弥生時代の遺構ベースとなる淡黄灰色粘質土中には繩文土器が包含されている。調査区の全域で20~50cmの厚さに同層の堆積が認められた。調査区の中央付近からは包含層下より径約1m、深さ7cmの浅い皿状の土坑が確認され、埋土中には比較的多量の土器片を包含していた。

8.まとめ

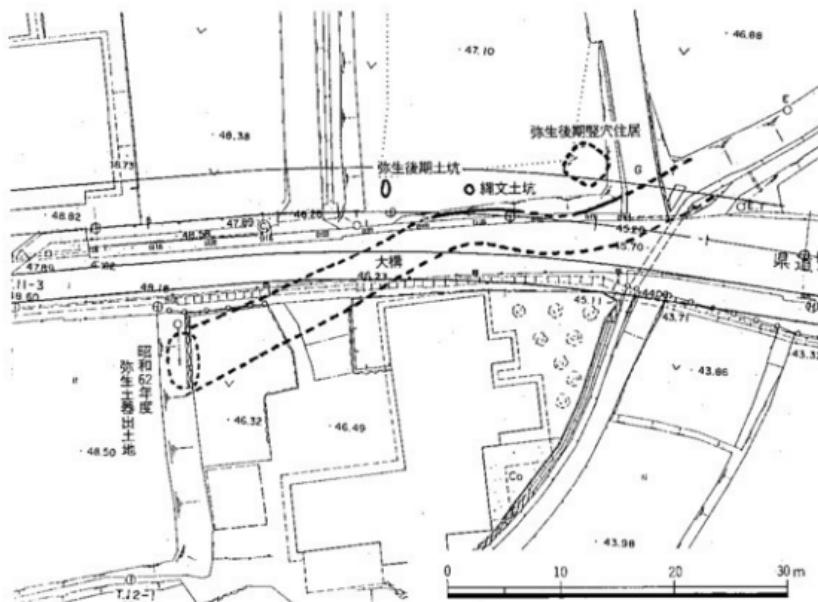
高松平野南部の弥生時代後期の集落遺跡として著名な竹元遺跡であるが、これまで詳細な内容は把握されていなかった。今回の調査では弥生時代後期の竪穴住居、大溝等を確認したことから集落構造の一端が明らかとなった。また、下層中から出土した繩文時代晩期の土器は、高松平野南部では極めて少ない出土例であり編年的位置付けが注目される貴重な資料である。

弥生時代後期の大溝は段丘縁辺部を巡る形で掘削されているもので、昭和62年の土砂崩れ時に多量の土器が出土した地区は、この大溝走行ラインの延長線上に位置する。多量の土器は大溝中からの出土を中心とするものである可能性が高い。今回の調査では大溝以南の部分から竪穴住居、土坑等の遺跡を検出しているため、この大溝は集落域の環濠とみなすのが妥当であろう。

また、繩文土器包含層も、今回の調査対象地内での形成状況からみて、さらに南方にまで形成域が広がっているものと考えられる。以上のことから今後同路線の拡幅工事に際しては充分な埋蔵文化財の保護措置が必要と考えられる。



第1図 遺跡の位置



第2図 造構配置図

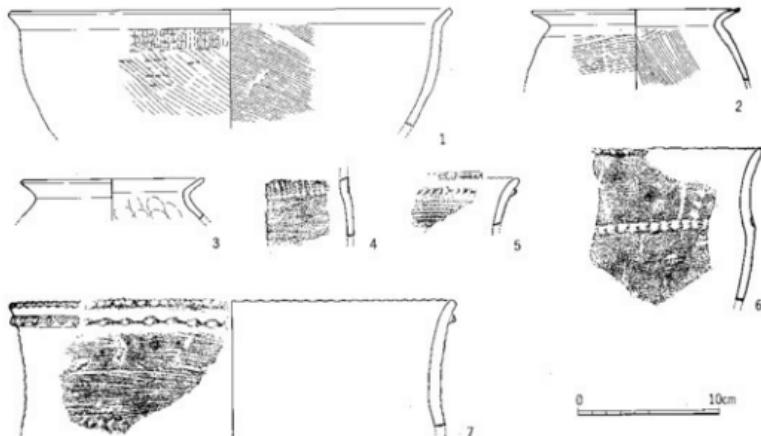


図3 出土土器実測図

八丁地遺跡

1. 所在地 大川郡志度町志度八丁地
2. 調査主体 志度町教育委員会
3. 調査期間 平成5年11月10~26日
4. 調査面積 540m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 県道高松志度線建設
7. 調査結果の概要

当遺跡は5年9月から10月にかけて行った試掘調査によって発見されたもので、今年度は路側の擁壁及び水路建設部分を対象に事前調査を行った。調査対象地のほぼ全域で弥生時代後期、古墳時代後期末、古代末～中世の包含層が形成されおり、また、西端付近から弥生時代後期後半段階の土器を多量に含む溝を検出している。同時期の遺構も西半部に集中する傾向があり東半部からは主に古代末～中世の流路・溝等を検出している。

8. まとめ

八丁地遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明したが特に弥生時代後期後半段階の一括資料は、志度地区内では初の調査例であり、また下川津B類土器を多量に含む点も注目に値する。なお、6年度上記事業に伴う本線部分の事前調査を(財)香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施する予定である。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 SD 01, 02 遺物出土状況



第3図 ピット群検出状況

石田高校校庭内遺跡

1. 所在地 大川郡寒川町石田東甲1065
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年5月19～9月9日
4. 調査面積 650m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 石田高校実習棟改築
7. 調査結果の概要

当遺跡は過去5回の発掘調査により弥生時代を中心とする集落遺跡として著名であるが、今年度は敷地の北端付近3か所で事前調査を行った。1区からは古墳時代後期末～中世の土坑、溝、ピット群等を検出した。2区では弥生時代後期～終末期の竪穴住居3棟等、3区では同時期の竪穴住居7棟、土壙13基等を検出している。竪穴住居では2方向に突出部をもつSH21、ベッド状遺構をもつSH32等が注目される。その他、古代の掘立柱建物、13世紀頃の井戸等を検出している。

8.まとめ

遺構・遺物の密集度は過去の調査区を大きく上回っており、弥生時代後期末頃の遺跡の中心地が今回の調査対象地周辺であることが判明した。また、同時期の遺跡が校庭西半分に展開しており、古代から中世段階に至って校庭東半分へと拡大するものと考えられた。なお、5年12月に県教育委員会より報告書を刊行している。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 3区完掘状況



第3図 2区完掘状況

富田茶臼山古墳他

1. 所在地 大川郡大川町富田中石仏
2. 調査期間 平成5年12月14日
～平成6年3月7日
3. 調査面積 (町教委) 258m²
(県教委) 25m²
4. 調査担当者 大川町教育委員会 細川
文化行政課主任技師 國木健司
5. 調査に至る経過と調査の結果

史跡富田茶臼山古墳の周辺地域で近年開発が数多く計画、実施されている。指定地域南方及び西方の水田地域では6年度県営圃場整備事業が実施されることになり、古墳関連遺構等の有無を確認するため町教委が主体となり12月14日から18日にかけて試掘調査を行った。古墳東方の通池についても指定範囲内を含め町当局による埋め立て工事が行われることになり、池内を中心に3月4日に周濠等の確認調査を行った。また、古墳南方の圃場整備予定地における試掘調査時に陪塚の存在が確認されたが、古墳北方の水田中にも塚状のマウンドが3箇所程度認められたため、それらの内容を確認するため県教育委員会が主体となり3月3日に試掘調査を行った。

6. 調査結果の概要

古墳南方の圃場整備予定地内では小規模な墓地周辺に設定した4本のトレンチで幅1～1.5m程度の溝状遺構を検出した。溝は一辺あるいは直径8mの方形あるいは円形に巡ることから、古墳の周溝に相当するものと考えられる。またいずれのトレンチからも円筒埴輪片（第2図1、2）が比較的多く出土している。保存状態は不良であるため調整等は不明瞭であるが、色調・胎土焼成とともに富田茶臼山古墳出土品に近似することからほぼ同一時期の所産とみなしてよいであろう。以上のことから今回確認した古墳は富田茶臼山古墳の陪塚に相当するものと考えられる。

古墳西方の圃場整備予定地内では南方方向に走る幅1.5m～3mの溝及び中世～近世の焼土、土坑、ピット等を検出した。南北溝については埋土中からかなり多くの円筒埴輪片（第2図3、4）が出土しておりやはり古墳と同一時期の所産とみなされる。その性格については古墳の周濠ラインとほぼ平行に走るものであることから周庭帯外縁を画する溝である可能性もあるが、周濠からは約80mも離れた位置であるため確定的なことは言えない。

通池周辺の試掘調査では池の畦畔に設定したトレンチから周濠及び外堤部を検出した。池の内部に設定したトレンチからは遺構、遺物ともに検出されなかった。以上のことから通池は古墳の周濠



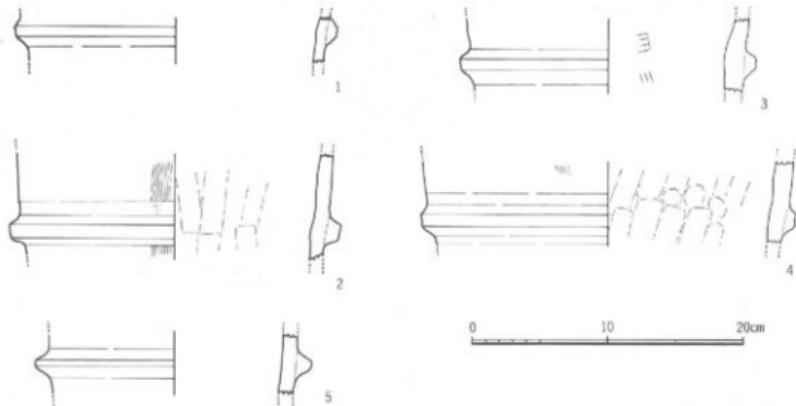
第1図 遺跡の位置

外堤を一部切り崩して構築されたものであることが判明した。

古墳北方の3基の塚状マウンドについてはいずれも古墳の存在を示すような遺構、遺物は検出されなかったが、塊石群に混じって中世土師器が多量に出土した。当該期のいわゆる塚に相当するものと考えられる。

7.まとめ

從来富田茶臼山古墳には陪塚は存在しないものと考えられてきたが、今回の試掘調査により古墳の南西地区に1基存在していることが確認された。位置的には古墳南方の周庭帯外縁ラインの延長線上に接するもので通有の在り方を示している。後世の掘削により主体部はすでに消滅しているものと考えられるが、当古墳のもつ畿内色の強さを示す新たな事実として注目される。また、古墳の西方約80mからは性格は不明であるが古墳に関連する可能性が高い溝状遺構を検出しておる、史跡指定範囲外についても今後十分な確認作業が必要と考えられる。(國木)



第2図 出土埴輪実測図



第3図 茶臼山古墳南方の陪塚



第4図 陪塚周溝検出状況

第5図 茶臼山古墳西方地区溝
検出状況



第6図 通池堤部周濠検出状況



第7図 茶臼山古墳北方塚群



仲善寺遺跡

1. 所在地 大川郡大内町水主中村
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成5年7月19日～8月6日
4. 調査面積 500m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 県道中村落合線自歩道新設
7. 調査結果の概要

当遺跡は去年度の試掘・事前調査により弥生時代から中世の複合遺跡であることが判明したが、今年度は県道拡幅予定地の延長部分を対象に事前調査を行った。調査区の北端付近で幅2～4m、深さ1.5mの大溝2条、南端付近で幅3～4m、深さ1.7mの大溝1条等を検出した。出土土器等から庄内式古段階併行期に掘削され、布留式新段階までに2度の再掘削が行われたものとみなされる。その他包含層中から弥生時代中期末、同後期後半段階の土器が多量に出土している。

8. まとめ

昨年度及び今回の調査によって旧与田川西岸の段丘上に弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落遺跡が展開していることが判明した。同時期の本格調査は旧大内郡内で初のものであり、良好な一括資料が多い点も注目される。なお、4年度分と共に平成5年度末に県教育委員会から報告書を刊行している。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 調査区北端大溝群



第3図 調査区南端大溝

角 塚

1. 所在地 三豊郡大野原町大野原
2. 調査主体 大野原町教育委員会
3. 調査期間 平成5年8月2日～5日
4. 調査面積 264m²
5. 調査担当者 大野原町教育委員会 藤川正明
調査指導 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 大野原町中央公園造成
7. 調査結果の概要

大野原町の中心部、役場等が立ち並ぶ平野の一
角に大野原古墳群が展開する。本古墳群は古墳時
代後期～終末期の本県最有力の首長墓群で、6世
紀末～7世紀初頭の楢原塚、7世紀前半の平塚、

7世紀中葉の角塚と一連の系譜をもち、その石室

形式の変遷は九州地方の影響を色濃く残す複室構造のものから、単室構造のものへの簡略的変化を
辿ることが可能な重要な資料であり、県指定史跡となっている。

今回、町が計画した中央公園造成に伴い、角塚周辺の指定範囲外への遺跡の広がりを把握するた
め、試掘トレンチを設定した。併せて、資料整備を目的とし、墳丘の測量調査も実施した。

調査の結果、深さ約2.5mの周濠が、現在の墳丘の周囲に巡ることが判明し、少量の須恵器片の出
土をみた。

8. まとめ

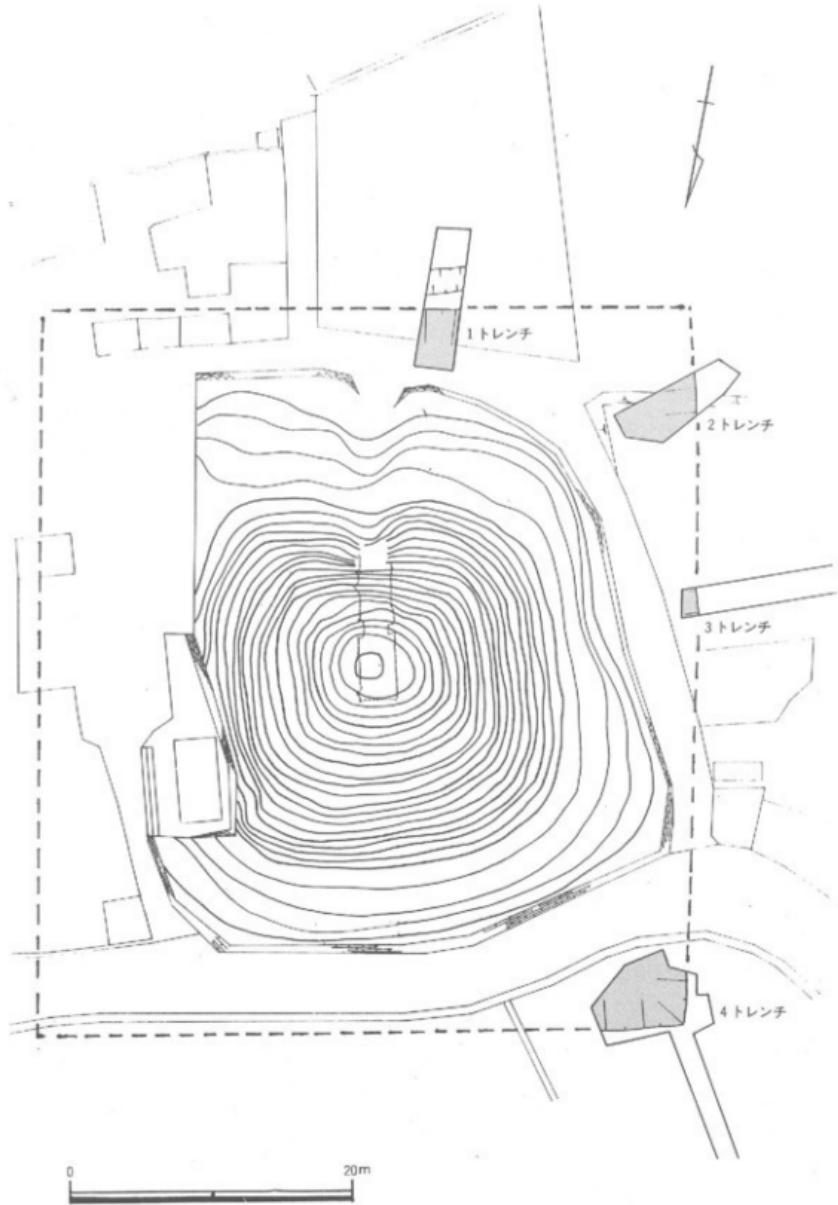
角塚の周濠を含めた規模は、南北54m、東西45mで墳丘は南北に長い長方形であることが判明した。また、周濠基底部から計ると、墳丘の高さは約10mにもなる。

今回の調査結果は、墳形が畿内において一般的な正方形墳と異なり、長方形という独特な形状を示した。また、当墳に後続する7世紀後半代の同町埴穴塚、豊浜町雲岡古墳は、当墳のそれそれ
より、 $\frac{1}{4}$ の墳丘企画を持つことも、見逃せない特徴である。

長方形の墳丘を持つ終末期古墳は、たとえば岡山県北房町定北古墳でもやはり長方形の墳丘を呈
しており、さらに広い範囲における系統を考える必要がある。今回の調査は指定範囲外における確認
調査であり、墳丘の基底部や外表施設等の確認は出来ていない。今後、指定範囲の検討を含め、将
來的な活用・整備をめざした、町の主体的な取り組みが必要となる。(森下)



第1図 遺跡の位置



第2図 角塚墳丘測量及びトレンチ配置図

高沢古墳群

1. 所在地 三豊郡豊中町大字上高野524-2他
2. 調査主体 豊中町教育委員会
3. 調査期間 平成6年1月10日～3月31日
4. 調査面積 550m²
5. 調査担当者 豊中町教育委員会 森 裕行
6. 調査の原因 豊中町内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

高沢古墳群は町内上高野大地の、オオジ山上に所在し、戦前まで大きな塚状のものが4～6基、小さなもののが約40基程度遺存していたが、戦中・戦後の開墾により現在では一基を残すのみとなり、他の墳丘は見ることができない。今回の調査により古墳群の西側の端の部分で古墳に使用されたと思われる砂岩の幼児の頭大の石が数個と、須恵器片數十点、完形の甕一点が出土した。4ヵ所程度にわけてトレンチを設定したが、遺構・遺物の検出があったのは、1ヵ所だけであった。

8.まとめ

今回の調査によりオオジ山西側まで続いていると言われる高沢古墳群の分布状況を確認した。高沢1号墳は墳丘部も残っているが、残り2号墳から4号墳まではその位置を推定するに留った。このうち砂岩質の幼児の頭大の石および須恵器片、甕の完形品が出土した地点は状況からみて高沢4号墳であったと考えられる。(森)



第1図 遺跡の位置



第2図 トレンチ全景



第3図 遺物出土状況

青龍古墳

1. 所在地 善通寺市吉原町1705番地ほか
2. 調査主体 善通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成5年7月1日
～平成6年3月31日
4. 調査面積 (測量) 10,300m² (発掘) 90m²
5. 調査担当者 善通寺市教育委員会 笹川龍一
6. 調査の原因 善通寺市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

青龍古墳は善通寺市吉原町に所在する巨大な中期古墳である。この古墳は県下で唯一、二重の濠を有する古墳として有名であるが、二重濠は古墳南側でしか確認できず、正確な古墳の規模や形態は確認されてはいなかった。

そこで、今後の土地開発等に対応し遺跡を適正に保存するために、遺構の正確な範囲や内容を把握する目的で古墳の測量調査と発掘調査を実施した。

8.まとめ

古墳の形状を調査するために合計9箇所にトレンチを設定したところ、本墳は二段築造の円墳であり、周濠と考えられていた部分は平らに削られた周庭であることが判明した。墳丘の直径は約40m、高さ約7m、周帯幅は南側では幅が狭まる可能性があるが北側では約20mを測る。また、外堀や周庭帯を見られていた部分は中世に改変されたものであることが判明し、同様の改変が墳丘北側でも確認された。本墳は鷺井神社として古くから機能していたが、この大規模な改変は出土した遺物や遺構の形態から戦国時代のものと考えられる。この場所は立地条件に恵まれ、平野全域が展望でき、更に四国を代表する中世山城（史跡天竜城跡）から極めて近い場所にある。（笹川）



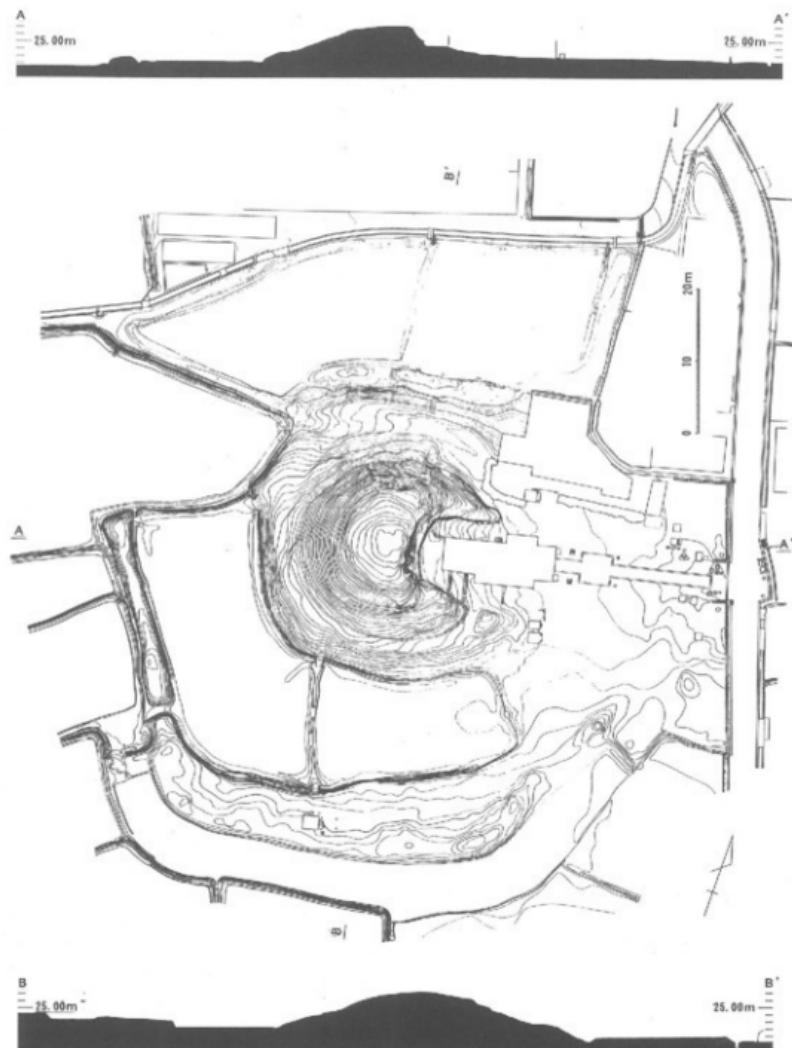
第1図 遺跡の位置



第2図 外濠と土壠に改変された古墳南側



第3図 左から土壠・周庭・墳丘



第3図 青龍古墳地形測量図

*詳細は「青龍古墳調査報告書」普通寺市教育委員会1994. 3. 31を参考にしていただきたい。

南 鴨 遺 跡

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. 所在地 | 仲多度郡多度津町大字南鴨42-4
42-5 |
| 2. 調査主体 | 多度津町教育委員会 |
| 3. 調査期間 | 平成5年6月7日
～平成5年6月11日 |
| 4. 調査面積 | 15m ² |
| 5. 調査担当者 | 多度津町教育委員会 岡 敦憲 |
| 6. 調査の原因 | |

南鷹遺跡は、加茂神社を中心とする大字南鷹地区付近に存在すると考えられているが、詳細な遺跡の範囲確認はなされていなかった。道路建設の計画があり、埋蔵文化財の有無についての調査を実施することとなった。範囲等の確認のため、トレンチ調査を実施した。

7. 調査結果の概要

南鴨遺跡は、微高地に位置していると思われるが、正確な範囲については不明であった。このため、道路建設にあたり、遺跡の範囲確認のための調査が必要となり、建設予定地より西側の微高地に近い部分について、トレーンチ調査をすることとした。

予定地付近は、農道のみであり、重機による掘削が不可能であったため、手掘調査となつた。表土より約50~70cmで地山を確認したが、遺物・遺構とも確認することはできなかつた。

8. まとめ

今回の調査の結果、南鴨遺跡については、発掘現場付近まで東方には拡がりをみないことが確認された。

- ・性格等について、解明していきたい。(岡)



第1図 遺跡の位置



第2図 土層断面



第3図 調査風景

史跡丸亀城跡

1. 所在地 丸亀市一番丁
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成5年8月3日
～平成6年3月15日
4. 調査面積 50m²
5. 調査担当者 丸亀市教育委員会文化課
東 信男
6. 調査の原因 史跡丸亀城跡環境整備事業
7. 調査結果の概要

史跡丸亀城跡環境整備事業に係る二の丸試掘調査を実施、二の丸に7か所のトレンチを設定した。本丸石垣下の調査箇所では、地表下80cmで遺構面を確認し、その上には約30cmの厚さで瓦の廃棄層があった。二の丸北多聞跡では多聞櫓の石垣を検出、二の丸配水池跡の西北側にある安山岩の石組のトレンチ調査から石組が築城当時のものでないことが確認され、その下から岩盤も検出された。また、二の丸井戸周辺には凝灰岩の石敷遺構が検出された。

8.まとめ

二の丸は、大正14年の二の丸配水池の建設に伴い遺構が破壊され、岩盤まで掘削されており、掘削された土砂は周辺に盛土されている。とくに北側の二の丸多聞跡の遺構は埋められ、遺構面も地表下約80cmのところにある。また、史跡丸亀城跡石垣修理事業に伴い修理中の花崗岩の石垣の内部より、安山岩の石垣が検出され、現況の石垣より古い時代の石垣であることが確認されたことも付け加えておく。(東)



第1図 遺跡の位置



第2図 二の丸北多聞跡石垣



第3図 本丸北石垣検出石垣

青の山南支群 2号墳（青の山5号墳）

1. 所在地 丸亀市土器町東四丁目89番地
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成6年2月3日
～平成6年3月3日
4. 調査面積 約60m²
5. 調査担当者 丸亀市教育委員会文化課
東 信男
6. 調査の原因 丸亀市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

昨年度の墳丘測量調査に引き続き、今年度は墳丘確認調査を実施した。調査は露呈している天井石を中心に十字に延びるトレンチを設定した。墳丘約11mで周濠をもち地山を削りだし、粘質土整形している。天井石は長さ約4m、幅約2.5m、厚さ約0.5mの安山岩で、石室には安山岩と花崗岩を利用している。羨道部入口から焼けた花崗岩と灰が検出された。遺物は須恵器と土師皿及び黒色土器等が出土した。

8.まとめ

当古墳の墳丘規模は青の山古墳群のなかではさほど大きいものではないが、石室に使用している石は消失した竜塚古墳に相当するものである。出土した須恵器甕片が6世紀後半のものであることから、当古墳もこの時期に築造されているものであろう。また、羨道部の埋土から11世紀後半の黒色土器と土師皿が出土した。羨道部入口から焼けた花崗岩や灰が検出された、後世に何らかの目的で再利用されている。（東）



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地区全景



第3図 羨道西側の石組

大 堀 城 跡

1. 所在地 仲多度郡溝濃町大字吉野
2. 調査主体 溝濃町教育委員会
3. 調査期間 平成6年1月18日～1月20日
4. 調査面積 2,112m²
5. 調査担当者 溝濃町教育委員会
天米賢吾 平田友彦 片桐節子
6. 調査の原因 土地造成
7. 調査結果の概要

当遺跡の試掘調査は調査対象内に任意にトレンチを設定し、重機により掘削した。

田の中に設定したトレンチでは、耕作土・床土直下に一部遺物包含層が認められるが、ほとんどは地山層となる疊層が検出された。包含層からは極少量の土師器が出土した。また、黒褐色の堆積層も検出されたが、その性格は不明である。その堆積層から遺物は出土していない。

土壘部分には3箇所にトレンチを設定した。

土壘部分では疊まじりの土砂が2m近く堆積しており、その下層は田部分と同様な疊層に続いている。このように土壘部分の盛り土（疊混じりの土砂）には版築は認められない。

8.まとめ

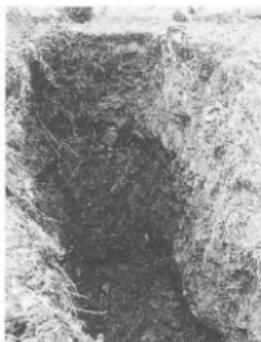
調査の結果、調査対象区内で遺構は検出されなかったが、周辺の踏査によって現在の地形に土壘・堀の痕跡が明瞭に認められ、推定で長辺約170m、短辺約100mの堀で区画された居館である可能性が指摘できる。そのために今後周辺の開発には十分注意する必要がある。(片桐)



第1図 遺跡の位置



第2図 試掘調査区



第3図 土壘調査トレント（北より）

烏帽子山遺跡

1. 所在地 坂出市加茂町烏帽子山
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成5年9月27日
～平成6年1月27日
4. 調査面積 85m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会 今井和彦
6. 調査の原因 採石事業
7. 調査の概要

烏帽子山遺跡は標高259.9mの安山岩塊の丘陵で、名前の由来どおり美しい円錐型を呈していたが、昭和初期からの採石とともに次第に山頂から中腹部が消失し、現在の形状に至っている。昭和30年代に北斜面が崩落した際に多くの遺物が発見され、坂出市文化財保護協会の有志によって、この時の遺物が採取されている。

その後も採石が継続され、山頂に至る道も消失し、急な絶壁だけがのこる状態となっている。今回、採石が山頂部に及ぶに至り、非常に危険な場所ではあったが、遺跡の内容の一部だけでも記録する目的で調査を実施した。

調査区は山頂部を中心として11ヶ所のトレンチを設定し、遺物が発見された地区で拡張しながら調査を展開した。西斜面については若干の遺物の出土をみたが、多くは流れ込みか後世の擾乱を受けたものであった。遺物は主として東地区に多く散布し、巨石間の谷間に狭い面積に暗褐色粘質土の堆積層が発見され、磨製石斧、石庖丁、石鎌、石錐、石小刀、叩き石、凹み石、石鍤、石皿、鉄製品などのほか、中期末から後期初頭の土器片が含まれていた。

遺物内容は基本的な生活用具がほぼ揃っている一方で、石鎌の凸基有茎式が圧倒的な量を呈している点がやや異質と考えられる。遺構については、残念ながら確認されず、遺構の存在したと推察される北地区については既に消滅しており、南急斜面の岩間に堆積した包含層のみが点在するのが遺跡の現状である。



第1図 遺跡の位置



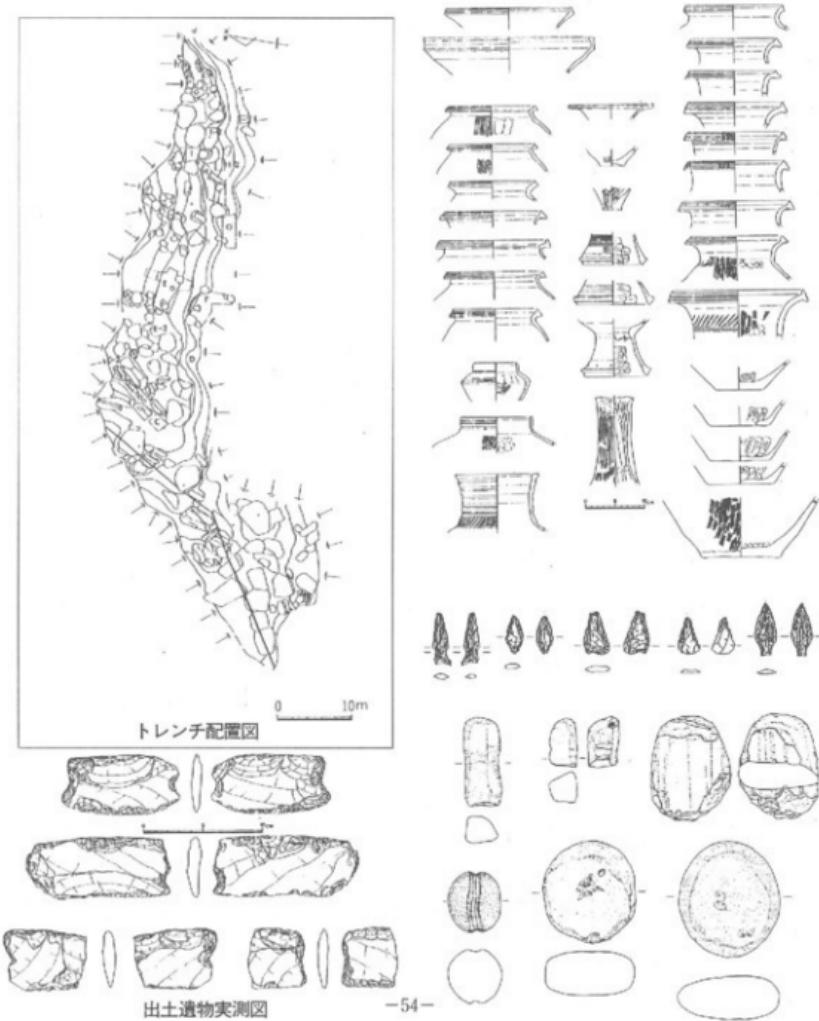
第2図 烏帽子山近景



第3図 遺物出土状況

8. まとめ

鳥帽子山遺跡は紫雲出山遺跡と並び、古くより知られた高地性遺跡であるが、採石に伴う発見遺物でしかその内容が知られていなかった。今回の調査は当該遺跡の初めての調査であり、極めて小規模な調査であったが、遺物包含層の確認と遺物内容の充実など極めて大きな成果があった。残念ながら、これらの遺物を使用した人々の生活の痕跡などの遺構については、その可能性が高い山頂平坦部がすでに消失しており、遺構検出は不可能と考えられる。(今井)



横山廃寺

1. 所在地 綾歌郡綾歌町富熊
坂出市府中町笹谷
2. 調査主体 綾歌町・坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成6年2月28日～3月24日
4. 調査面積 347m²
5. 調査担当者 綾歌町(近藤) 坂出市(今井)
6. 調査の原因 採石事業
7. 調査の概要

横山廃寺は標高241mの安山岩塊と風化安山岩の丘陵である横山頂上部に位置しており、從来より古瓦片が採取され、また安山岩板石を長手積みにした石部屋のような石垣が雜草に覆われながらも確認されていたほか、石組井戸なども存在しており、『府中村史』には万福寺跡として記載されている遺跡であると思われるが、現在は山の名称を冠して横山廃寺としている。

今回の調査は採石業に伴う遺跡の確認調査で、その中心部よりは周辺部の拡がりを確認することを主な目的とした。伐採直後に北東部に土壘状の高まりが確認され、この部分の断ち割りと周辺の精査を実施した。周辺から古瓦片や土師質土器片が検出され、土壘状の高まりの内部に石塊が不規則に含まれていた。これらの石の下層や地山直上に土師質土器小片などが発見されるなどこの土壘状の高まりが後世に築かれた可能性も考えられるが、一方で版築状の固い部分などが検出されるなど、横山廃寺と同時期の産物の可能性も否定出来ない点もある。

遺構については北西から南東に長い矩形の石積みが確認され、南東部では2段の明瞭な段差が確認され、更に上段にも石の高まりがあることから、最低でも3段の石段が築造されていたものと考えられる。東部には石組み井戸が残っており、直徑約1m、深さ約1.5mを計測している。井戸の形状を呈しているが、雨水などの水溜め用井戸であったと思われる。



第1図 遺跡の位置



第2図 遺物出土状況



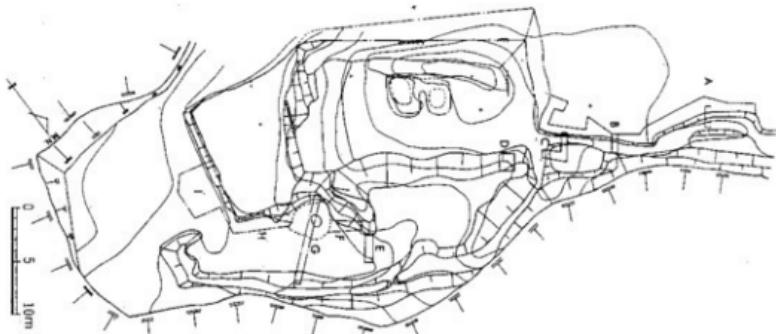
第3図 出土遺物

西方は石組が崩れており、明確なラインが読み取れないため、トレンチを石組に向けて設定して石組裾部の検出を実施した。崩壊した石塊裾部より約1m内部に石組が検出され、この部分が本来の石組裾部であったことが確認された。地山については安山岩盤の上に直接石組を築いており、地山成形時に段状構造になるように大規模な造成を行ったと推察される。

遺物は各トレンチで出土しており、多くが布目の残る平瓦片や丸瓦片であるが、瓦頭としては右三巴を5個配した間に2本の斜格子文を入れる珍しい型式の平瓦のほか、先端が丸みを帯びず剣状となる右三巴丸瓦や、尾が長い右三巴など、鎌倉時代初期の時期が考えられる。また剣先状の右三巴丸瓦は讃岐最古の形式の次に位置するものと考えられ、平安時代末頃に位置する可能性もある。更に、須恵器片や縁釉高台片なども出土しており、また鬼瓦片がそれぞれ北西角と南東角より出土しているなど興味深い出土状況を呈している。

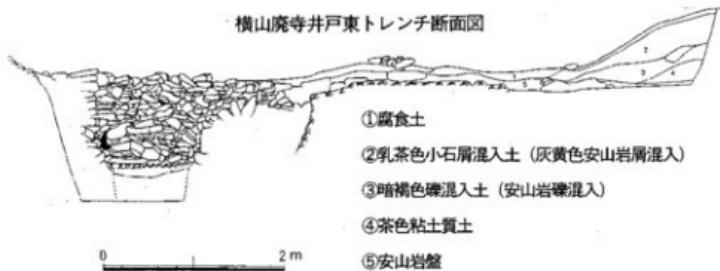
8.まとめ

横山廃寺は北西から南部にかけてが既に採石により崩落しており、現状で残る部分が遺跡の範囲と考えられるが、北西部については、土壠状の高まりの消失とともに遺物の散布もなくなるため、この土壠状の高まり迄と考えることができる。また、西部分については現状の石組の崩落した地点までがこの遺跡の範囲と考えられる。(今井)



横山廃寺平面図

横山廃寺井戸東トレンチ断面図



犬塚

1. 所在地 綾歌郡綾歌町岡田西1592-4
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年11月13日～12月31日
4. 調査面積 約100m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会主事 近藤武司
調査指導 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 自然崩壊
7. 調査結果の概要

犬塚は岡田万塚の中に分布する古墳の1つである。この地域にはその名のとおり多くの古墳が存在したが、幾度かの開墾によってほとんどどの古墳が消滅し、わずか数基が現存しているという状況である。その貴重な遺跡の中の1つである犬塚も自然崩壊によってその形を変えようとしていた。そこで町教育委員会では土礫を積み崩壊を防ぐように保護措置を実施することにした。その事前調査として墳丘の測量調査を実施した。墳丘内部には石室が存在しているようで、その一部と思われる石が露出している部分もあった。また、周辺より弥生土器片も採取された。

8.まとめ

今回の調査によって犬塚は現状で直径9m、高さ2.5mを測る円墳であることが確認されたが石室の位置からみて本来は数メートル大きかったものと推定される。詳しい内容及び範囲等については発掘調査を実施しなければ掴みきれないが、取り敢えずはこの保護措置によってこれ以上の崩壊は防ぐことができた。(近藤)



第1図 遺跡の位置



第2図 全景(東より)



第3図 石室露出部(南より)

宇 門 神 社 古 墳

1. 所在地 綾歌郡綾歌町栗熊西277他
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年6月23日～7月7日
4. 調査面積 約1,000m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会主事 近藤武司
調査指導 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 神社社務所建設工事
7. 調査結果の概要

宇門神社古墳は宇門神社の境内に配する古墳で、町内では最大の横穴式石室を持つ古墳である。平成2年度に社務所を建設した際、埴丘西側を一部掘削した為、早急に調査が必要とされていた。今回、神社本殿建て替え工事を実施することになったので、遺跡の保護措置として埴丘測量調査を実施することになった。

調査範囲を伐開し、測量すると共に社務所建設により掘削された部分について断面の調査も行った。

8. ま と め

出土遺物は検出されなかったが、埴丘測量及び断面からみて直径約12～13mの埴丘を持つ円墳であることが確認された。また、断面観察では埴丘のほとんどが盛土で築成されており、また周溝は存在していないことも判明した。

また、今後の計画として石室羨道部を中心として崩壊が進んでいるので、発掘調査を実施して保存措置を行う必要があるであろう。(近藤)



第1図 遺跡の位置



第2図 掘削部断面（北より）



第3図 横穴式石室（東より）

第4図 墳丘測量図



定連遺跡

1. 所在地 綾歌郡綾歌町栗熊西224-1
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年11月22日～12月31日
4. 調査面積 約1,230m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
調査指導 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 採土工事
7. 調査結果の概要

定連遺跡は平成4年度の試掘調査により、直径15mの円丘部をもつ弥生時代終末期の墳丘墓であることが判明している。

その後の協議により現状保存が不可能となつた為、今回の発掘調査に至った。

今回の調査では主体部を4基検出した。第1、第2主体部は粘土床をもつ土壙墓、第3、第4主体部は土壙墓である。また、第4主体部については第1主体部を埋葬したときの盛土を掘り込んで構築されたものであることが土層から判明した。

8. まとめ

平成5年度の試掘調査に引き続く今回の調査により、定連遺跡は東半分を盛土で、西半分は自然の山を一部掘削整形して築成していることが判明した。また、出土遺物は少なかったが、試掘調査時の出土土器から庄内式併行期の築造と考えられる。

立地環境から平尾墳墓群、石塚山古墳群との関係が注目される。(近藤)



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡全景（北から）



第3図 第1、第2主体部

薬師山古墳

1. 所在地 綾歌郡綾歌町栗熊東
927番地 2地
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年4月17日～5月5日
4. 調査面積 約40m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 土砂採取
7. 調査結果の概要

薬師山古墳はかつて行われた調査により箱式石棺状の竪穴式石室等が検出されているが墳丘形態、規模等は明確ではなかった。今回古墳が所在する丘陵部で土砂採取が図計画がされ範囲確認のため測量、試掘調査を行った。石室が所在したと思われる地点は大規模な盗掘坑が確認され石材もすべて抜き取られていた。丘陵上に8本のトレンチを設定したが、盛土等も確認されず、表土直下が地山面となっていた。ただ、石室周辺には広範囲に須恵器片の散布が認められた。

8.まとめ

從来から2基の主体部が所在すると言われていたが、今回の調査ではいずれも確認されなかった。盛土や地山削り出し等も確認されず本来明確なマウンドは持たなかった可能性もある。ただ、本来の丘陵部はかなり削平を受けていることから周辺に比較的多く散布する須恵器片は古墳に伴うものである可能性が高い。図示した杯類について細部の特徴は不明であるがⅠ期後半の所産と推定される。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 出土須恵器実測図



第3図 遺跡全景



第4図 トレッヂ完掘状況

行末遺跡

1. 所在地 綾歌郡綾歌町栗熊東
字下河西66-6
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年12月3日
4. 調査面積 約10m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 医院建設
7. 調査結果の概要

行末遺跡は旧久万玉村役場建設時に弥生時代前期の竪穴住居等が検出された著名な遺跡であるが範囲等は明確でなかった。今回の対象地はかつての調査地の北約200mの地点であり長さ10m、幅1mのトレンチを設定して遺構の有無を確認した。厚さ約88mの客土層下に旧耕作土が存在し、以下約30mの堆積層を挟んで厚さ約60cmの遺物包含層に至る。包含層上層は暗灰褐色粘質土で弥生時代前期、後期の土器及び石器、須恵器等を包含している。下層は灰褐色疊混り粘質土で弥生時代前期の土器、石器を多量に包含している。同層下の黄褐色疊混り粘土層上面を遺構面とするピットも検出している。包含層形成状況からみて弥生時代前期後半の集落遺構の一端を検出したものと考えられる。

8.まとめ

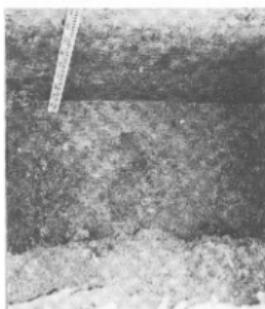
行末遺跡は丘陵頂部を中心に展開しているものと考えられていたが、丘陵裾部周辺まで広がっていることが明らかになった。遺物量も多く今後充分な確認作業とともに保護措置が必要である。なお、今回の出土遺物についてはあらためて紹介することにしたい。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 トレンチ土層



第3図 ピット検出状況

庄遺跡

1. 所在地 綾歌郡綾歌町富熊1720-1他
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成6年2月7日～16日
4. 調査面積 約100m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会 近藤武司
文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査の原因 団体営土地改良総合整備
7. 調査結果の概要

庄遺跡は上記事業実施中に多量の土器片が出士したことから工事を一時中断し切土部分の事前調査を実施したものである。調査対象となつたのは丘陵東斜面部であり、6世紀から9世紀にかけての掘立柱建物、溝、土坑等を多数検出した。これらの遺構ベースとなる黄褐色砂質土中には弥生土器、石器片の含有が認められ、同層下からは弥生時代のビット群も検出している。また、調査対象地周辺からは弥生時代終末期の竪穴住居3棟等を確認している。

8. まとめ

工事中の不時発見であったが庄遺跡が弥生時代から古代にかけての複合遺跡であることを確認することができた。特に6～9世紀の遺構は密度も高く今後整理作業を行って内容・変遷を明らかにしていきたい。弥生時代終末期の竪穴住居群は同一丘陵の西斜面に所在する次見遺跡と同一時期と推定され、その関係が注目される。なお、今回の調査対象地周辺に遺跡は広範囲に広がるが盛土等により現状保存することになった。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 完掘状況



第3図 SD-01 遺物出土状況

すべつと窯跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町大字陶
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成5年2月1日～8月10日
4. 調査面積 約11,000m²
5. 調査担当者 片桐節子
6. 調査の原因 綾南町総合運動公園
7. 調査結果の概要

今回調査を行った5・6・7号窯は一つの谷筋に並んで立地する。窯下方には自然落ち込溝が流れ、灰原が広がる。6号窯については4条のロストルを持った平窯で、焚き口と焼成室の一部に後世の削平を受けているが、遺存状態はほぼ良好であった。規模は長辺が1.95m、幅は燃焼室から焚き口に向かってややひろがっており焼成室最大幅1.25m、燃焼室に近いところで、1.30mを計る。ロストルに沿っての壁に幅約5cmの隔壁を持ち、溝部分に杯等の遺物が残る。

8.まとめ

現在整理作業中であるが5・6号窯を見てみると、5号窯は半地下式の登窯で、出土の遺物は壺主体で、少量の瓶・杯が見られる。6号窯は皿・杯主体で極少量の壺・瓶が見られる。両窯には大きな時期差はないと思われるため、この焼成土器の差は土器の焼き分けを表しているものと考えられる。7号窯については灰原が全く遺存していないため焼成土器の比定は困難である。なお、周辺を精査したものの掘立柱建物等の遺構は検出できなかった。(片桐)



第1図 遺跡の位置



第2図 6号窯近景



第3図 6号窯及び下方窯状遺構